

# 主権者教育のための成人用参加型学習教材



参加型学習教材研究会

2013年3月

## はじめに

選挙は、民主政治の基盤をなすもので、選挙が公正に行われなければその健全な発達を期することはできません。このことは、国民一人ひとりが、政治や選挙に十分な関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策を判断できる目を持ち、自分の一票を進んで投票することをもってはじめて達成できるものです。

そのためには、選挙時だけでなく常日頃からあらゆる機会を通じて、政治・選挙に関する国民の意識の醸成、向上を図っていくことが重要です。公職選挙法第6条は、総務大臣及び選挙管理委員会は「選挙が公明かつ適正に行われるように常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努めなければならない」と規定し、「常時啓発」を国及び選挙管理委員会の責務としています。ただ、このような大きな任務は、総務省と選挙管理委員会だけで果たせるものではないので、他の機関や明るい選挙推進協議会などの民間団体の協力を得て進められています。

総務省は、平成23年、時代に即した常時啓発のあり方を探るため、「常時啓発事業のあり方等研究会」を設置し、同年12月、研究会の最終報告書が提出されました。最終報告書は、これからの常時啓発の方向として「主権者教育」、すなわち「あらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を作ること」を提唱し、その一環として、「参加型学習」の必要性を提案しています。

学校教育における児童・生徒を対象とした参加型学習については、多くの教材が出されていますが、大人を対象としたものは、数が限られています。この本は、主として成人を対象に、主権者教育に資する参加型学習の教材を開発しようとするものです。7つの教材を掲載しております。地域における常時啓発の研修会などでご活用いただけたら幸いです。

なお、作成にあたりましては、青森市明るい選挙推進協議会の渡部一清会長、NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所の西村寿子所長、福井大学教育地域科学部の橋本康弘准教授のご指導、ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成25年3月



## 目次

1	参加型学習のすすめ	
	(1)参加型学習とは	4
	(2)主権者教育における参加型学習の必要性	5
2	一般的な参加型学習の手法	6
3	参加型学習の教材案	
	教材1	
	「A村村長選挙の選挙公報づくり」	12
	教材2	
	「北海東北市市長選挙のマニフェストづくり」	30
	教材3	
	「有権者の意識を知って、投票率向上の方策を探る」	38
	教材4	
	「若者の意識を知って、若者の投票率向上の方策を探る」	50
	教材5	
	「ニュース番組を使ったメディア・リテラシーワークショップ」	61
	教材6	
	「新聞を使ったメディア・リテラシーワークショップ」	75
	教材7	
	「法教育の視点から ルールづくり」	84

# 1 参加型学習のすすめ

## (1) 参加型学習とは

研修会、勉強会などで用いられる学習形態には、講義型学習の他に、参加型学習という方法があります。

従来行われてきた講義型学習は、課題に関する知識を増やし、一度に多くの人が学べることなどのメリットがありますが、一方通行の知識伝達型学習です。また、聞いただけで満足してしまい、課題解決のための行動にまではつながりにくい面があるとされています。

参加型学習は、学習者が学習過程に参加することを促す学習手法と捉えられています。「教える・教えられる」という関係で学ぶのではなく、学習者が積極的に他の学習者の意見や発想から学び、異なる知識や経験を相互に発信して、学習が進められます。参加型学習には、参加型社会を創造することを目指す学習という面もあるとされています。学習者が現在または将来の課題に気づき、理解し、問題解決能力などを向上させ、学習後にはその実践として社会に参加する態度を養う学習です。

### 類似の用語

参加型学習の呼び方はいくつかあります。文部科学省では参加体験型学習と呼んでいます。文部科学省が教育委員会、社会教育施設を調査対象に実施した調査(平成18年)によりますと、ワークショップ、体験型学習、参加体験型学習、参加型体験学習等々と分かります。ワークショップという呼び方が広がっていますが、この言葉は本来、何かを作り出すことを目的とした「作業場」「工房」を意味しています。そのことからワークショップを方法ではなく、学習者が共同作業を通じてお互いに学び合う「場」と捉えることもできるようです。本稿では便宜上、参加型学習としています。

### 具体的な手法

参加者が積極的に参加できるように、疑似体験をさせたり、ゲーム的要素を入れるなど、様々な工夫があります。次章でいくつかご紹介しますが、ブレインストーミング、KJ法、ランキング、ロールプレイ、ディベート、フォトランゲージ、フィルムフォーラム、ゲーム、フィールドワーク、シミュレーションなど、様々な手法があります。ひとつひとつをアクティビティと呼ぶことが多いようです。

学習プログラムは、参加者、目的などによって、いくつかのアクティビティを組み合わせることで企画します。参加型学習の効果として、学習者間の交流・コミュニケーションがうまく進められ、結果として学習者や集団の変容や協働

が促進されることがあげられます。そのためには、参加者の意識の流れに沿ってプログラムを構成することが大切です。また、プログラムの最後には、学習で得られた気づきや知識を確認し、それを今後に活用していくための整理をする場として、ふりかえりの時間を設けることが必須です。

プログラムを企画するときに注意することとして、参加しやすくするためとはいえ、疑似体験やゲーム的要素に偏りすぎないようにしなければなりません。また、参加者の課題に対する知識の内容や量に違いがありすぎると、例えば豊富な人がその知識だけで話し合いをリードしたり、例えば知識を持っている人が少ないと学びが深まらないなどの不都合が生じます。講義のような体系的な知識の提供と参加型学習の良さを組み合わせることが大切です。

学習冒頭に行うアイスブレイク(氷を砕く)も重要な要素です。「これから何をやるのだろう」と緊張している参加者の気持ちをほぐすために、他の参加者と気軽に言葉を交わせるための雰囲気づくりです。

学習の企画、進行はファシリテーターが務めることが多いようです。「促進者」と訳され、テーマの内容を深めたり、広げたりしながら進めます。その役割は学習活動を促進、活性化させることであって、指導の名の下に内容をコントロールすることではありません。

## (2) 主権者教育における参加型学習の必要性

総務省が設けた「常時啓発事業のあり方等研究会(平成23年)」は、これからの常時啓発として主権者教育を提唱しました。主権者教育とは、子どもから高齢者まであらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者を育てるものです。自立した主権者とは、政治的・社会的に対立している問題を判断し、意思決定していく政治的リテラシーを身につけていることです。投票義務感の強い高齢者も、さらに政治的リテラシーを高めていくことが重要であり、常に学び続けることが求められています。

例えば投票立会人など、実際に社会の諸活動に参加し、体験することで、社会の一員としての自覚が高まり、さらに加えて、研修会、勉強会などにおいて、情報を収集し、的確に読み解き、考察し、判断する訓練を受けることが必要です。子どもに対しては、学校教育などにおいて模擬投票などの社会参加学習・体験学習が増えってきましたが、高齢者の学習については政治や選挙をテーマとする従来型の講義手法が多いので、今後は参加型学習への取り組みが求められます。

なお、従来市町村における常時啓発事業の中核に位置付けられてきた、身の回りの政治・社会問題をテーマに行う話し合い学習は、講義式でない少人数の参加型学習であり、今後も政治的リテラシーを養成する手法として活用すべきでしょう。

## 2 一般的な参加型学習の手法

参加型学習において一般的に使われている手法(アクティビティ)を、いくつかご紹介して、感じをつかんでいただきたいと思います。その後に「3 参加型学習の教材案」で、主権者教育をテーマにした参加型学習教材をご紹介します。

### ブレインストーミング(発想法)

ブレインストーミングは、1938年(昭和13年)頃、アメリカの広告代理店BBDO社の副社長であったアレックス・F・オズボーンが考案しました。「ブレイン(脳)で問題にストーム(殺到)する」という意味合いから名づけられ、今日では、最も広く知られた創造的思考法の一つとなっています。

ブレインストーミングは、10人以下のグループで行い、特定のテーマをめぐって、既成概念にとらわれずに自由にアイデアを出し合い、問題を創造的に解決するための討議方法です。一人では考えつかなかったような問題解決の糸口や新しいアイデアの発想につながります。

#### ①4つのルール

ブレインストーミングの本領は、自由奔放にアイデアを出し合うところにあります。それを実現するために4つのルールが決められています。

**自由な発想**      どんなに変な思いつきだと感じても、思いついたままを率直に出すことが大切です。自分の思いつきに反省を加えることは禁物です。

**質より量**      何でも良いから、次々と思いついたことを出すことが大切です。理屈抜きでたくさん思いつきを出しましょう。

**批判厳禁**      他人の思いつきに対しても、良し悪し、可能・不可能という批判的な発言は一切しないでください。

**連想**      他人の思いつきでも、遠慮することなく、それを基にして自分の思いつきを発展させて出すことが大切です。

## ②ブレインストーミングの効果

- ・ 特定の問題に対して、その解決策を考えられます。
- ・ 参加者の創造的な問題解決能力が開発されます。
- ・ グループの一体感や仲間意識が強くなります。

## ③発想のための予備練習

出そうと思ってもなかなか出てこないのがアイデアというものですが、アイデアを出しやすくするためのコツのようなものがあります。

まず頭の中を柔らかくしましょう。なごやかな雰囲気の中で、固くならず、肩の力を抜いて、リラックスしましょう。そして、質より量と、気軽に思いつきをどんどん出していくようにします。

では実際のテーマでブレインストーミングを始める前に、練習をしましょう。練習には身近なテーマを設定してみてください。10でも20でも、思いつくままメモを書き出してみましよう。

### ➡ 例えば

- 「なぜおはようございますと挨拶するのか」
- 「まちを活性化するにはどうすればいいか」
- 「地球温暖化を防ぐにはどうすればいいか」

## ④ブレインストーミングの進め方

ブレインストーミングは以下のような手順で進めます。

### ア 実施方法の説明

カード(付箋紙など)、サインペン、模造紙などを用意し、ブレインストーミングの目的と進め方を説明します。

### イ テーマの設定

話し合うテーマを設定し、グループに分かれます。それぞれのグループで、進行役、記録係などを決めます。

### ウ アイデア、意見の出し合い

4つのルールを守って、アイデア、意見を出し合います。進行役のもと、自由にできるだけ多くのアイデア、意見を出し合います。この場合、各自がカードに記入したり、記録係が模造紙に書き出したりします。1枚のカードには1つのアイデアを具体的に書きます。

参加者がすぐにアイデア、意見を発表するのが難しいときは、はじめに少し時間を取って、メモ用紙に書きだしてからそれを発表していく方法もあります。

#### エ グループ討議

出されたアイデアが、テーマや目的に対して一面的に偏ったものにならないようにするため、全体を眺めることが大切です。意見を並べたり、並び替えたり、組み合わせたりして新しい情報としてまとめ、アイデアを掲示してみます。

#### オ グループ討議の結果発表

各グループで発表資料などを模造紙などにまとめ、全員に見えるようにホワイトボードなどを使って、それを掲示します。

### K J 法(ケージェー法、分類法)

K J 法は、文化人類学者の川喜田二郎氏が考え出した創造的問題解決の方法で、川喜田氏の氏名の頭文字をとってK J 法と名づけられました。

K J 法では、ブレインストーミングの要領で出されたアイデアや意見などを1枚ずつカード(付箋紙など)に書き込み、それらのカードの中から近い感じのするもの同士を集めてグループ化し、図解していきます。そして全体を見ながら検討し、話し合います。こうした作業から思わぬ発想が生まれ、解決に役立つヒントやひらめきが出てきます。

#### ①K J 法の進め方

K J 法は以下のような手順で進めます。

##### ア 実施方法の説明

カード(付箋紙など)、サインペン、模造紙などを用意し、目的と進め方を説明します。

##### イ カードづくり

ブレインストーミングの要領で、思いついたアイデア、意見をカードに書きます。あとでカードを内容ごとに分類するので、1枚のカードには1つの意見を具体的に書き、2つの内容を書いてはいけません。また、グループ全員が読めるように、サインペンなどで大きめに書きます。

##### ウ カードの分類・集約

カードを書いた本人が意見を読み上げ、説明します。参加者はカードに書か



れた内容を丹念に読み取り、内容が近い感じのカードごとに分類して、小グループにまとめます。まとめるときに、カードを無理にどこかのグループに入れないようにしましょう。

エ 見出しづくり

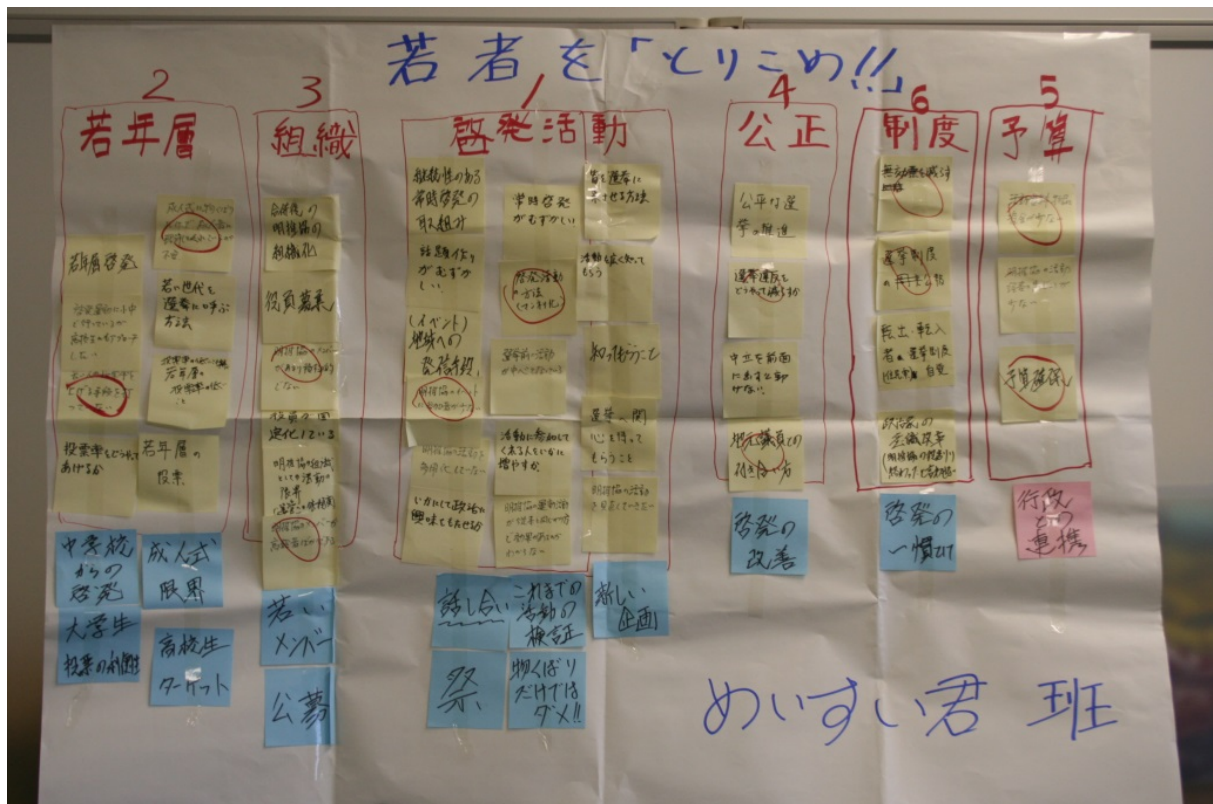
内容ごとに別けられた小グループに見出し(タイトル)を付けます。

オ 図解化

関係のある小グループをまとめた中グループ、その中グループをさらにまとめた大グループと、次々にグループ化していき、模造紙の上に貼り付けます。

カ 解決策

図解化されたものをじっくり眺めて、グループ間の関係性を読み取っていきます。全体について意見交換をし、文章化するなど問題の解決法を導き出していきます。



## 特性要因図法

KJ法と似ている手法に特性要因図法があります。「調査・分析」「問題点の発見・解決」の基本的な方法で、問題(=特性)の主だった原因(=要因)を明らかにするものです。問題とその原因との関係を魚の骨のような図解にして分析していきます。図解が魚の骨の形に似ているので、「フィッシュ・ボーン」とも呼ばれています。

### ①特性要因図法の進め方

特性要因図法は以下のような手順で進めます。

#### ア 実施方法の説明

カード(付箋紙など)、サインペン、模造紙などを用意し、目的と進め方を説明します。

#### イ 原因の究明とカードづくり

問題の原因について、ブレインストーミングの要領で意見をたくさん出して、カードに書きます。あとでカードを内容ごとに分類するので、1枚のカードには1つの意見を具体的に書き、2つの内容を書いてはいけません。また、グループ全員が読めるようサインペンなどで大きめに書きます。

#### ウ 特性要因図の作成

背骨となる太い矢印を模造紙の中央に書き、討議のテーマを記入します。

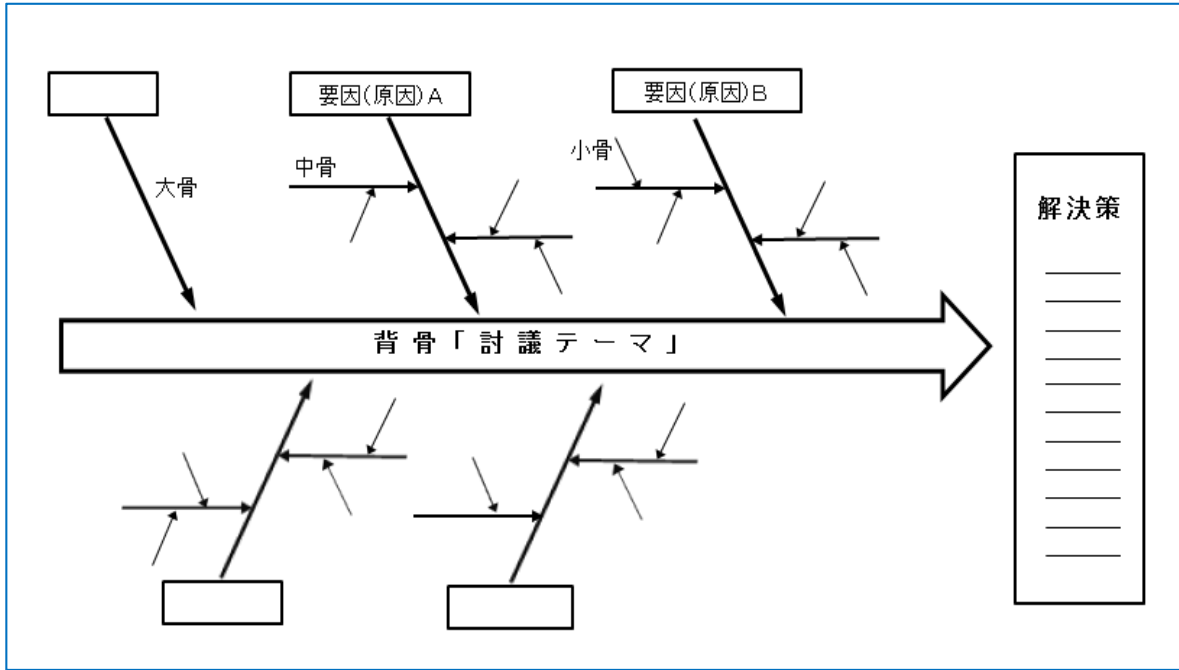
各人のカード(小骨)を、同じ内容のカードごとに分類し、それぞれに見出しをつけます(中骨、大骨)。次いで、背骨に向けて矢印で線を引き、それに沿って分類したカードと見出しを張ります。

#### エ 解決策の話し合い

原因としてまとめられたいくつかの見出しに対する解決策を、ブレインストーミングを使ってたくさん出し、話し合います。解決策の見出しを背骨の右側に記入します。

#### オ 討議結果の発表

各グループで出された原因と、それに対する具体的な解決策を発表します。



## ②解決策の分類

討議した結果を踏まえて、解決策として提出された意見を実行性の度合いによって分類すると、より具体的に解決策が見いだせます。

### ア ○△□×で分ける

- ・すぐに実行できるもの →○
- ・修正して実行に移すもの →△
- ・検討を要するもの →□
- ・実行しないもの →×

### イ 色で分ける

提出された解決策の実行可能性について、書き出すカードの色分け(違う色の付箋紙など)でわかるように分類する方法もあります。

- ・すぐに実行できるもの →ピンク
- ・修正して実行に移すもの →黄色

### 3 参加型学習の教材案

#### 教材1 「A村村長選挙の選挙公報づくり」

12～29頁

この教材は、A村(架空の村)の概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政、その他についての解説文を読んで、村の特徴や地域課題、政治的課題等を把握し、そのうえでグループの代表が村長選挙に立候補するための政治政策(マニフェスト)を策定し、選挙公報として発表し合うという設定になっています。

そして、A村の地域課題や社会的、政治的課題について討論し合う過程で生みだされるアイデア豊かな政策提案を通して、政治的判断力や政治・選挙への参加意欲を向上させることをねらいとしています。

#### 1 趣旨

行政や地域づくり及び政治・選挙への参加意識を高める。

#### 2 テーマ

「政治・選挙とくらしとのつながりを考えてみよう」

— 住みたくなるような“村”をつくろう —

#### 3 所要時間

3時間程度

#### 4 主な活動内容

- ・ 解説資料の読み取りと協議
- ・ マニフェストの策定
- ・ 選挙公報の作成
- ・ 発表
- ・ 評価
- ・ 学習のふりかえり、まとめ

教材1→

## 5 演習要領

### (1) A村を住民の視点で変えていこう！

この教材では、各グループの代表がA村の村長選挙へ立候補するための「選挙公報」を作成します。

参加者に、グループを単位としてA村の村長候補になっていただくと同時に、身近な問題から村全体の問題について自由に意見を出し合い、よりよいA村にするための話し合いをしていただきます。

個人としてはA村の住人として、自分達の考えた政策と他の候補者の政策を比較検討し、「村の将来を任せるのはどの候補者がよいのか」について討論を交わし、判断をしていただきます。

実際の選挙では、選挙ポスターの掲示や選挙カー等での選挙運動が行われますが、この研修では候補者の政策を住民に伝えるための「選挙公報」を作成します。その作業過程で、参加者一人ひとりの村づくりについての思いや意見を交わし合い、グループとしての意見をまとめます。

政策を立案し、「選挙公報」を作成するといっても難しく考えることはありません。参加者が日頃生活で不便を感じたり、不満に思ったりすることなどを思いおこし、それらを改善する方法を考えてみる・・・そこから政治への参加がはじまり、政策につながっていきます。

そして、その政策を周りの人々にうまく伝えられるよう、目に見える形にすることが「選挙公報」を作成するという事です。

これまでの政策や現実の政策にとらわれることなく、ブレインストーミングの要領で、自由な視点、自由な発想による村づくりの政策をかかげてください。

- 話し合いの基本ルール
- ・自由に思いつきを出すこと。
  - ・たくさんの思いつきを出すこと。
  - ・他の人の思いつきを批判しないこと。
  - ・他の人の思いつきからも連想すること。

この教材では、あくまでも架空のA村のまちづくりについて話し合いをしますので、実際の都道府県や市区町村の状況を参考にするのはかまいませんが、あくまでも課題に沿った形で「選挙公報」を作成してください。

## (2)準備する物

### ①資料

- ・資料1「年齢別投票率」21頁
- ・資料2「A村の現況」22頁
- ・資料3「意識調査・選挙関心度、投票に対する考え」24頁
- ・資料4「B町の現況」25頁

### ②ワークシート

- ・ワークシート1「選挙公報作成ノート」28頁

### ③資材等

- ・ホワイトボード(記入用具、マグネット等) — 各グループに1枚
- ・模造紙(選挙公報) — 各グループに2枚
- ・台紙(模造紙の下に敷くもの) — 各グループに1枚
- ・付箋紙(縦横7.5cm程度 黄色、ピンク色、青色の3色) — グループ数分
- ・サインペン(中字用 黒色) — 人数分
- ・サインペン(太字用 黒色、赤色、青色の3色) — 各グループに1セット
- ・セロハンテープ — 各グループに1個
- ・よくできましたシール(付箋紙などで代用可) — 人数分
- ・感想文用紙(主催者作成)

## (3)構成

- |                   |        |      |
|-------------------|--------|------|
| ①アイスブレイク          | ( 10分) |      |
| ②課題、内容、資料、進め方等の説明 | ( 15分) |      |
| ③活動               | (100分) |      |
| ④発表会              | ( 30分) |      |
| ⑤評価               | ( 10分) |      |
| ⑥学習のふりかえり、まとめ     | ( 15分) | 計3時間 |

## (4)進め方

### ①アイスブレイク(10分)

アイスブレイクは、研修参加者をリラックスさせ、触れ合いを深め、恥ずかしがらずに積極的にワークショップに参加する意欲を高めます。選挙クイズやジャンケンゲーム、川柳、政治・選挙に関わる最新ニュース(新聞やテレビの記事、各地の出来事)等を、予定時間や研修参加者の年齢、人数、開催地域等を勘案して用意しておくことが望まれます。

なお、アイスブレイクの技法を身につけることがねらいではないことから、ことさら時間をかけすぎないように配慮することも大切です。

## ②課題、内容、資料、進め方等の説明(15分)

演習要領(1)、資料2「A村の現況」、ワークシート1「選挙公報作成ノート」を用いて、分かりやすく短時間で説明するように工夫します。あわせて、投票率の現状(資料1)なども紹介します。

## ③活動(100分)

ワークシート1を使います。

### ア グループ分けと役割分担

なるべく所属団体、居住地域、職業、男女、年齢等がばらけるように、5～6人程度のグループを作ります。自己紹介の後で、司会者(グループでの進行係)、記録係、発表者を決めます。

### イ A村(架空の村)の現状把握

まず、各人がA村の現況(資料2)を読んで、「概況」「人口・世帯」「産業」「基盤整備」「村民所得・村財政」等の分野別に問題点を抽出し、その解決策を考えます。それらは、続いて行なわれるグループ内での話し合いの土台となるので、自由な発想で、質より量を心がけるようにします。考えたことは、付箋紙に書き留めます。

### ウ 分野別問題点・解決策、優先順位の発表と検討

各人が抽出した問題点や解決策を、発表し合い、効果や優先度などを検討してそれぞれに順位をつけ、グループとしての意見にまとめます。この作業は、KJ法(→8頁)の要領でアイデアや意見を図解していきます。完成したら、模造紙に貼り付けた付箋紙が落ちないように、セロハンテープで固定します。

各人はグループの意見をワークシート1「選挙公報作成ノート」にまとめ、記録係はホワイトボードに書き出します。

### エ 理想とするA村のイメージとそれを実現するための政策を立案

まとまった意見をもとに、グループとして重視していく分野、そうでない分野を順位付けし、理想のA村のイメージを確定し、スローガンを作成します。スローガンを実現する政策を立案していきますが、理想を実現するための政策が落ちていないか、力強い提案になっているかなどを吟味し、特色ある主張ができるようにします。

また、発表に備えて、自分達の政策に対する想定問答と、他の立候補者への質問を考えておくことも必要です。

オ 政策を掲げた「選挙公報」原稿の作成

自分達の意見を伝えるためには、まず興味を持って見てもらうことが大事なので、文字の大きさや配置などを工夫し、見やすく、わかりやすいものを作成します。

#### ④発表会(30分)

各グループの選挙公報をホワイトボードなどに張り出した後で、予め抽選等で決めておいた順番に従い、各グループの発表者が村長選挙の候補者となって政策を発表し、聴衆(他のグループ)からの質問に答えます。

各候補者の発表時間は厳守です

ア 基本政策(目指す村づくりの方向)

グループの政策目標(スローガン等)を掲げ、グループが考える基本的な政策、もしくは最も重視する政策を、現状と解決策とをあわせて発表します。

イ 優先分野

まず、各分野の順位付けに対する考え方を発表し、次に、まとめた各分野の順位について、当該分野を重視する理由を発表します。また、重視しない分野については、その影響も発表します。

ウ 自由発表

さらに、「特にPRしたい政策」、あるいは「全く別のPRしたい政策」についての発表も認めることにします。

#### ⑤評価(10分)

最も優れていると思うグループの政策(選挙公報)に、各参加者が「よくできましたシール」を貼り付け、その数を集計して順位を決めます。ただし、自分のグループの選挙公報には貼り付けないことを事前に約束しておきます。

#### ⑥学習のふりかえり、まとめ(15分)

研修をふりかえりながら、「気づいたことの共有」と「共有事項の確認」をして研修成果をまとめ、さらに、研修後の活かし方等を約束し合います。

- ・年齢別投票率(資料1)、意識調査の結果(資料3)などを示します。
- ・感想文作成、後始末、閉講式。



## (5)役割

### ☆ファシリテーター(全体の指導)

ファシリテーターは、参加者一人ひとりの思いや意見をうまく引き出しながら進めることが大切で、特に次のようなことに留意します。

- ・分かりやすいプレゼンテーションを心がけ、参加者が目的を十分に理解して取り組めるように配慮します。
- ・共感的、受容的な雰囲気をつくりながら、柔軟な姿勢で進めます。
- ・参加者が主体的に参画でき、参加者同士のコミュニケーションが図られるように気を配ります。

### ☆司会者(各グループ)

- ・参加者の意見がポイントから外れないように進めながら、できるだけ多くの意見を引き出します。
- ・特定の人意見だけで討議が進んでいくことがないようにします。
- ・自分の意見や結論を押しつけないように気をつけながら進めます。
- ・討議内容をまとめながら進め、予定時間内で終了できるようにします。適宜休憩を取ってください。

### ☆発表者(候補者)

- ・発表したい事項をメモしながら、作業に参加します。
- ・グループとしての主張や提案を強調し、アピールします。
- ・配分時間内で発表を終えられるように、発表内容をまとめておきます。

## ☆参加者

- ・ 思いつきや推測の意見でもよいので、積極的に意見を出すようにします。
- ・ 討議が円滑に進むように司会者に協力します。
- ・ 発表者以外のグループメンバーが、質疑の時間に発表者の意見の補足を行うこともできます。
- ・ 自分達のグループと他のグループの政策を比較し、疑問な点は積極的に質問します。

## ☆助言者

ファシリテーターの他に、各グループに次のような役割を担う複数の助言者(選挙管理委員会職員又は明るい選挙推進協議会員)を配置すると、より充実した研修が期待できます。

- ・ 自己紹介や役割分担がスムーズに進むよう助言します。
- ・ 参加者の積極的な関わりや協力で、グループ内の意識が向上するよう助言します。
- ・ 作業手順を理解し、完成へのイメージが描けるよう助言します。
- ・ 資料の読み取りと分析、深まりのある話し合いができるよう助言します。
- ・ 効果的な表現を工夫しながら作業をまとめ、時間内に発表準備を完了させるよう助言します。

## 6 研修の充実と応用

- 演習内容を「選挙公報作成」の他に、「選挙公約(マニフェスト)作成」、「演説原稿作成」、「選挙ビラ作成」として研修を展開することもできます。
- 実際の選挙で作成、使用された「選挙公報」や「選挙公報原稿用紙」等を示して、「選挙公報」に対する理解を深めるとともに、「選挙広報」との違いを理解してもらう機会にもなります。
- 資料2「A村の現況」を、参加者に事前に送付し、一読しておいてもらうようにすると、一層効果的な展開が期待できます。
- 模造紙に貼り付けた付箋紙は、そのまま保存し、次回の研修でその成果を生かすことで、より完成度の高い研修を目指すことができます。
- ホワイトボードは、打ち合わせ時のメモに使いますが、時間等の都合で模造紙に清書できない状況になった場合には、そのまま「選挙公報(案)」として使えますし、カメラ等に収めて研修成果として持ち帰ることもできます。
- この教材は、各種選挙で投票を経験済みの成人を対象としていますが、青年等を対象とする研修では、はちまき・たすき姿で「立候補の演説」をさせたり、実際の「投票記載台」や「投票箱」等を使用することなどによって、本番同様の投票体験の場とすることもできます。

### 資料の補記修正等

#### ○リアリティ

A村を、研修開催地の規模に合わせて“〇〇市”、“△△区”、“□□町”のように市区町村名を工夫したり、あるいは開催地に関わる資料を随所に挿入したりすると、より身近で具体的な話題が提示されることから、リアリティに富んだ政策論争や「選挙公報」の完成が期待できます。

#### ○現況の設定項目

A村の現況についての設定項目(概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政、その他)の説明が、不足もしくは短くて使いにくい、あるいはA村の設定規模が開催市区町村の実態とかけ離れている、さらには、都市部の実情にはそぐわないなどという場合には、適宜、補記・修正してください。

その際に、政治・選挙に関する意識調査で用いられた以下の質問項目から、必要と思うものを選んで資料を作成することもできます。

#### ○質問文

「今回の選挙でどのような問題を考慮しましたか。いくつでもあげてください」

#### ○回答肢(回答数の多い順)

景気・雇用(64.3%)、年金問題(64.1)、医療・介護(59.8)、税金問題(36.5)、  
少子化対策(32.4)、教育問題(31.3)、環境問題(25.4)、財政再建(25.3)、  
所得格差(25.1)、物価(24.4)、政権のあり方(23.5)、行政改革(19.1)、  
政治資金問題(16.5)、中小企業対策(15.8)、災害対策(15.8)、地方分権(14.1)、  
防衛問題(12.6)、国際・外交問題(12.2)、治安対策(11.0)、農林漁業対策(9.6)、  
憲法問題(7.8)、土地・住宅問題(6.4)、考えなかった(1.7)

(第45回衆院選に関する意識調査 平成21年10月調査 明るい選挙推進協会)

#### ○B町町長選挙の選挙公報づくり

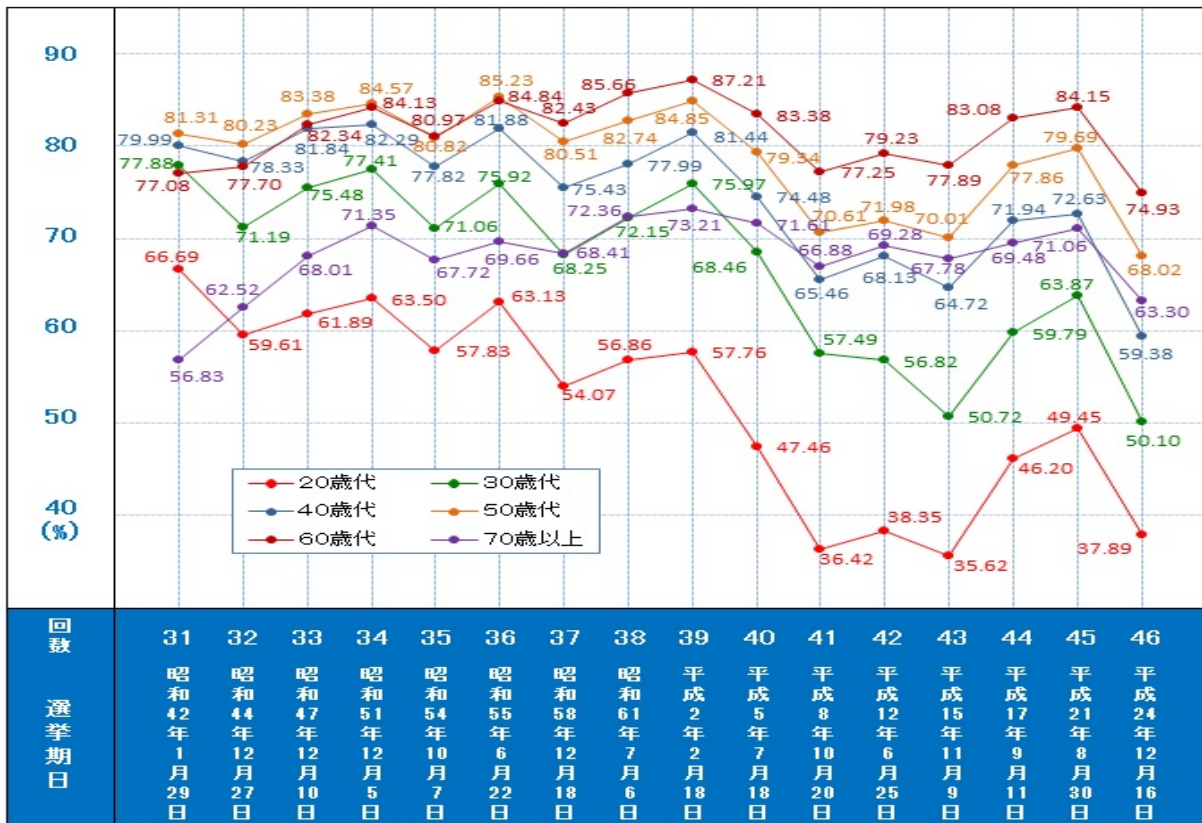
資料2「A村の現況」の条件設定を変えたのが、資料4「B町の現況」です。同規模自治体(町)での実施案として、また、研修時間を4～5時間程度確保できる場合等で活用してください。

#### ○工夫

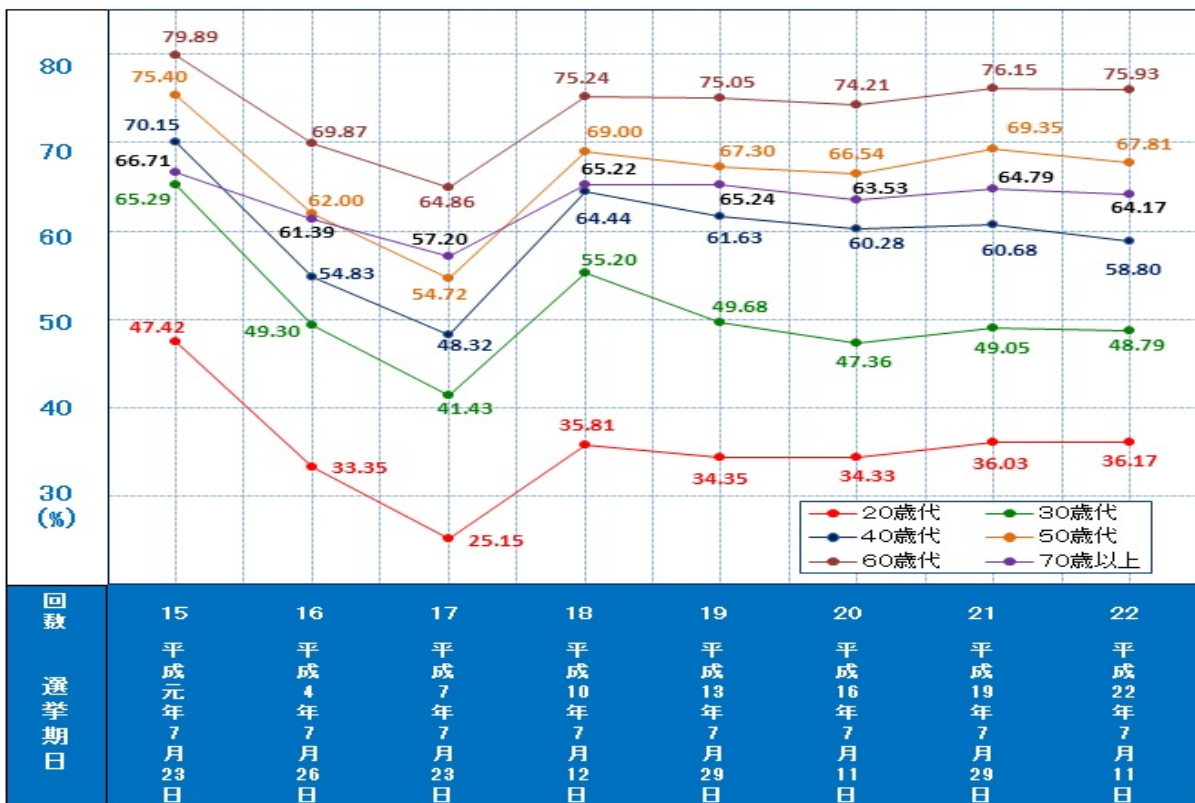
この他に、開催市区町村の特徴や地域事情、活動状況、研修日程等に応じた工夫を加え、研修参加者自らのアイデアでまちづくりをする興奮を味わわせ、さらには楽しみながら政治・選挙を論じ合う機会として設定してください。



<資料1> 年齢別投票率(衆議院議員総選挙)



年齢別投票率(参議院議員通常選挙)



## <資料2> A村(架空の村)の現況

### 1 概況

A村は、面積約100平方km、耕地面積1,500ha、林野6,800ha、六甲田水系につながる溪谷や一部海岸線を含む変化に富んだ自然がある反面、平野部は農耕地にも恵まれている。名所としては、昔から村民の憩いの場となっている温泉「長生き湯」があり、また、最近発掘された三角山縄文遺跡があり、調査が進んでいる。

文化・スポーツについては、村内にある公立高校を中心にアーチェリーが盛んで、オリンピック出場者を輩出している。

### 2 人口・世帯

村の人口は1,475人。うち287人(19.5%)が65歳以上、15～64歳の生産年齢人口が965人(65.4%)、0～14歳の年少人口が223人(15.1%)となっている。農業離れに加え、雇用の場が少ないことや都会指向から、若者の流出が著しく、年少人口の減少傾向と老年人口の増加傾向が顕著となっている。世帯は、核家族世帯が48.7%を占め、単独世帯も18.5%となり、親子世帯が同居する世帯は32.7%となっている。

### 3 産業

村の主産業は稲作やだいこん、やまいも、銘柄のトマト「桃子」等の畑作や売り出し中の「あすなる牛」があるが、経営規模は小さく、専業農家は17.5%、うち農業収入を主とする世帯(1種兼業)は26.4%にすぎない。また、沿岸漁業者もいるが現在、専業漁業世帯は皆無となっている。観光については、夏にハイキングや海水浴、釣り客等は訪れるが、産業といえるものとなっていない。最近、村の若者や有志によりホテルの里づくりやカブトムシの森づくりの取り組みが進みつつあり、遺跡発掘の動向も注目されている。

村の中心商店街も、市部郊外のスーパーマーケットや最近開通した国道バイパスの影響によりすっかり寂れ、国道沿にできた「道の駅」だけが唯一賑わっている。

役場や団体に勤務する以外の村民の多くは建設業に従事したり、誘致した工場で働いたりして生計をたてているが、不況のあおりで雇用が縮小し、最近では近郊の市部の商店、スーパーマーケットや流通、運搬等の従業員、パート等として通勤し生計を維持する世帯が多くなっている。

### 4 基盤整備

村の基盤整備は、耕地区画の整備、用排水路の整備、土層改良など農業基盤が急

速に改善されたが、農業経営を巡る諸情勢から、十分なメリットをもたらさず、負担金が重荷となっている。道路基盤については村道、農道等が整備され、また、国道バイパス開通により利便性が増したものの、産業基盤としては十分機能していない。逆に、バス路線の一部廃止等、村民の生活にはマイナスの側面もあり、小学校の統合や公共施設の運営難など課題が多い。下水道の普及率は20%程度と県平均の半分にも満たない。村の50周年記念事業として建設された多目的文化・スポーツ施設は、斬新な外観と優れた音響効果で評価は高いが、当初の目論見と異なり、利用が十分でなく、運営に窮している。

医療施設については、従前あった村の診療所が廃止されたため、不便を生じており、高齢者施設については最近、地元業者により老健施設が開所されたものの、待機者が多く、また、村社会福祉協議会運営のデイサービスセンターも、定員が少なく、村内のニーズを満たすに至っていない。

## 5 村民所得・村財政

1人当たり村民所得は県平均251万9千円に比し、180万円と非常に低い水準にある。村内には目立った娯楽施設等もないため、若者のみならず村民の消費活動は隣接する市部におけるものが中心となっている。

また、村財政は年間予算約30億円となっているが、公債費比率(村財政における借金返済経費の占める割合)は25.0%(県平均17.1%)、経常収支比率(地方税、普通交付税など毎年度の経常的な収入である経常一般財源が、人件費、公債費などの義務的支出にどの程度充当されているかを示す指標)は92%(県平均87.8%)となっており、不測の事態に備える基金も底をつく状況にある。

このため、民政安定と活性化のためには、若者が定住できるような産業の振興と村の財政再建が課題となっているが、未だその打開策が見いだせない状況にある。こうした中、最近になって中央資本の最先端技術による産業廃棄物処理・処分施設立地の話が持ち上がり、建設受注や税収、雇用効果等が期待できることから、推進を望む村民は隣接町村と綱引きをしているが、反対者も多く、村としては態度を決めかね、進展をみていない。

## 6 その他

先に行われた参議院議員通常選挙では、村民の関心も薄く、村選管では懸命の啓発キャンペーンを行ったものの投票率は53.91%と、県内市町村でビリから7番目という結果であり、中でも20代の若者の投票率は22.8%と極端に低いものであった。

注：表記中用いた固有名詞は実在のものとは関係ありません。

資料提供：青森県選挙管理委員会

<資料3> 意識調査・選挙関心度、投票に対する考え

今回の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心を持ちましたか。  
この中から一つあげてください。

選択肢	%
非常に関心をもった	58.9
多少は関心をもった	34.0
ほとんど関心をもたなかった	5.5
全く関心をもたなかった	1.4
わからない	0.2

あなたは普段、選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか。  
この中から1つあげてください。

選択肢	%
投票することは国民の義務である	57.5
投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	23.0
投票する、しないは個人の自由である	19.1
わからない	0.4

(第45回衆院選に関する意識調査 平成21年10月調査 明るい選挙推進協会)



## <資料4> B町(架空の町)の現況

### 1 概況

B町は面積約300平方km、耕地面積3,800ha、林野面積12,000ha、海に接する平野部と、世界自然遺産に登録された黒神山地及びこれに連なる起伏の多い台地部から成り立っており、町のほぼ中央を町のシンボルの岩本川が流れている。

人口は、戦後一貫して増加してきていたが、若者の流出や出生率低下などによって人口の減少が始まり、ピーク時には2万人を超えていた人口も、現時点では、1万5千人あまりとなっている。年代別の人口構成比も年少人口(0~14歳)が15.1%なのに対し、老年人口(65歳以上)は20.5%と、少子高齢化が進行している。

### 2 産業

B町の基幹産業は、農業及び漁業を中心とした第一次産業である。農業については従来、稲作が主流であったが、減反政策により畑作に転向するところが多く、現在ではメロンやスイカといった果物が、全国でも有数の生産量を誇るまでになっている。品質・生産量では他に引けを取らないものの知名度で劣るために、安定した価格を維持するのが難しく、あまり収入増にはつながっていない。それに近年の少子高齢化と相まって後継者が不足してきており、耕作放棄される農地が後を絶たず、荒れ地化し問題となってきた。若い後継者がいる農家でも農業だけで生計を立てるのが難しいために兼業化し、高い品質を維持するのが困難となっている。

漁業については、以前は近海でも豊富な魚種を背景に一年を通して一定の漁獲高があったが、乱獲の影響からか漁獲高は減少傾向にあり、それに伴い収入も減少してきている。そのため、資源保護のため操業の期間を制限したり、近海でのほたて貝の養殖や岩場を利用したウニ・アワビなどの養殖など新たな試みがなされている。その結果、魚種・数量ともにわずかながら回復してきており、養殖による生産も年々増加してきているなど効果が現れてきている。しかしながら、操業制限は、その間の収入を得ることができなくなるものであり、また、本格的に養殖事業を開始すると、大規模な設備が必要となるなど問題もある。

近年郊外へ中央資本の大型スーパーマーケットが進出したことにより、周辺市町村からの来客もあり賑わいが出てきている。一方で、もともと中心地であったあかもり駅を中心とした商店街は、年々寂れてきてシャッターが目立つような状況になっている。町の主な雇用の場はこのスーパーマーケットが最大のものであり、その他は地元建設業数社や誘致した小規模の電子部品工場程度であり、町内で働きたいという人の数に比べて、雇用の場は少ない。また、最近では、中央資本の経営状況の悪化が表面化し、スーパーマーケット自体の存続も危うい状況となっている。

### 3 文化・観光

B町には、県が建設した美術館がオープンしたばかりであり、世界で初めて公開する作品を展示するなど、滑り出しは上々といえる。オープンして日が浅いこともあり、美術館の成否は今後の運営次第といえる。

観光面では、海水浴場や郷土の文豪の生家や古い寺社、豊富な湯量を誇る温泉、世界自然遺産の黒神山地をはじめとする広大な手付かずの自然など、数々の地域資源には恵まれているが、それを十分に活用しているとはいえない状況である。

大きな船山車が繰り出す神社の夏祭りは、北前船交易ゆかりのものとして有名で、同時期に行われる花火大会とも併せて近年は知名度が徐々に上がってきており、観光客も年々増加してきている。年間にB町を訪れる観光客の約半分がこの時期に集中しており、絶大な集客力を誇っている。

宿泊施設は民宿、旅館数軒のほか結婚式等にも利用されるホテル一軒があるが、訪れる観光客に比べると受入態勢は十分整っているとはいえず、観光客の大半は日帰り若しくは、周辺の他市町村に宿泊することになる。

祭りの時期には町は大賑わいとなる反面、それ以外の時期にはまとまった集客はなく、観光産業を継続していく上で大きな支障となっている。

### 4 インフラ

B町には、海岸線から中心部を経て、隣接の市へとつながる鉄道があり、中心部に駅が設置されている。近年隣接の市に新幹線が開業したことにより、首都圏へのアクセスが飛躍的に向上した。中心部にある駅には新幹線に接続する特急も停車することから、利用者は増加してきており、B町を訪れる観光客の多くは鉄道を利用している。

B町の道路網については、海沿いに国道が近郊の市部から延び、山村部へは同国道に接続する県道により結ばれている。これらが、産業・生活両面で町の幹線となっている。最近国道バイパスが完成し、隣接の市部とのアクセスが更に改善され、従前の時間の半分で移動することが可能になった。このように国道及び県道については幅員も十分で整備は進んでいるが、このほかの各集落内及び各集落間をつなぐ町道及び農道は整備状況にばらつきが多く、狭い道路や見通しの悪い道路が現在もまだかなりの場所で見受けられる。

最近では町民の移動手段は自家用車が中心になっているが、車を使用していない人の利便を図るため、公共交通機関として民営のバスが各集落間及び中心部をつなぐ足として運行しているが、典型的な赤字路線となっていることから、民間業者からは廃止を打診されている。

冬のB町は雪が多く、町では業者に委託をして除雪を行っているが、大量の降雪があった日には道路事情も相まって、大型機械による除雪を行うことができない地

域があり、日常生活に支障を来すこともたびたびある。

## 5 医療・福祉

B町医療機関については、町内にある公立病院が以前から地域の病院として中心的な役割を果たしてきたが、慢性的に医師不足となっていることから、科目によっては診療日が限られるなど、満足な医療を受けられない場合もある。そのため、最近では道路状況が改善されていることから、近隣の市民病院に車で通院する人も多くなってきている。

公立病院は大幅赤字を抱えていることから、周辺の公立病院との統廃合という話も挙がっていて、無医町化の恐れも出てきており、町内で適切な医療を受ける機会の確保が難しくなっている。

福祉面では、保育所は各集落にまんべんなく配置されており、周辺市町村に比べ比較的恵まれているといえるが、近年の少子化傾向により年々入所希望者が減少してきており、現在は定員に対する入所希望者の割合は約70%となっている。

老人福祉施設については、特別養護老人ホームが常時入所待ちの状態、町集会所を増改築して開設した町社会福祉協議会運営のデイサービスセンターも、大賑わいとなっている。また、在宅介護支援も追いつかない状況にあることから、ヘルパーの確保が問題となっており、町の介護保険料も値上げを検討している。

## 6 町民所得・町財政

B町の産業経済は、基幹産業の農業生産は例年並みの収穫量だったものの、全国的な豊作により価格が低迷したことから、1人当たり町民所得は県平均(216万円)に比べ、171万円と著しく低くなっている。また、農閑期に副業的に従事していた土木工事等の雇用も公共事業削減により減少してきている。

地域の産業の衰退に加え、国の三位一体改革や県の財政改革に伴う補助金の見直しや廃止、交付税の削減などによって町の財政も大変厳しいものとなっており、経常収支比率(税などの一般財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充当しているかをみる指標)は95.9%(県平均92.0%)と、非常に窮屈な財政状況にある。

B町では主だった産業もなく、人口も減少傾向にあるため、自主財源に乏しい状況は今後も続くとみられる。さらに、今後は過去に建設した公共施設の維持管理費や高齢化の進行による社会福祉費等の公的負担の増加が見込まれるので、役場機構のスリム化や事業の見直しが必要となってくることから、効率的な行政運営を目指して行政改革プランを策定する予定である。

資料提供：青森県選挙管理委員会

## 〈ワークシート1〉 選挙公報作成ノート

グループ名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

皆さん一人一人がA村の住人となって、それぞれの視点や発想による村づくりを考えます。そして、その発想をもとに村長選挙に立候補し、政策を主張するための選挙公報(原稿)を作成します。

### 1 A村の問題点

あなたが考えるA村の問題点や改善点について、分野ごとに記入してください。どんなに細かいものでもいいので思いついたら、記入しましょう。

【概況】

---

【人口・世帯】

---

【産業】

---

【基盤整備】

---

【村民所得・村財政】

---

【その他】

---

### 2 問題点の解決策

1で挙げた問題点や改善点について、具体的な解決策を書き出してください。

【概況】

---

【人口・世帯】

---

【産業】

---

【基盤整備】

---

【村民所得・村財政】

---

【その他】

---

### 3 理想とするA村のイメージ(スローガン等)

2で検討した問題点の解決策をもとに、あなたの考える理想のA村のイメージを描いてください。その際には、それぞれで検討した項目について順位をつけ、どのような項目を重視するのかを明確にしてください。

また、その姿を簡単に表現するような「スローガン」を考えてください。

### 4 政策

これまでの検討事項を基に、理想のA村にするための政策を立案してください。

#### 【選挙公報イメージ】

4でまとめた政策をよりわかりやすく伝えるような、選挙公報のイメージを考えてください。実際に「キーとなるフレーズ」や「図・イラスト」等を割り付けるなど、できるだけ具体的なイメージを提示してください。

#### 【グループ員(他のグループ)からの意見等】

話し合いを通してのグループ員(あるいは他のグループ)からの反応、自分の考えと同じ点や異なる点、疑問に思う点など、最終的に評価の参考となるような事項を整理してください。

☆A4判2枚

☆配布するシートは、□内の説明文を消し、書き込めるようにしてください。

## 教材 2 「北海東北市市長選挙のマニフェストづくり」

30～37頁

教材 1 「A村村長選挙の選挙公報づくり」は、資料の読み込みが必要で、ある程度の時間を要するプログラムです。そこで、2時間程度で行えるものとして提案するのが、この「北海東北市(架空の市)市長選挙のマニフェストづくり」です。

架空の市を設定するのは同じですが、設定条件を簡素化し、さらに地図などを使ってゲーム感覚でできるようにしています。

### 1 趣旨

地域づくりや行政及び政治・選挙への参加意識を高める。

### 2 テーマ

北海東北市(架空の市)市長選挙のマニフェストをつくろう。

### 3 所要時間

2時間程度

### 4 主な活動内容

- ・資料の読み取りと協議
- ・マニフェストの策定
- ・発表
- ・評価
- ・学習のふりかえり、まとめ

### 5 演習要領

#### (1) 個性的なまちづくりを目指そう！

グループの代表が北海東北市(架空の市)の市長選挙に立候補し、どの地区(地図上の3地区)に何を建設または誘致し、どのようなまちにしたいのかを検討し、その結果をマニフェストとして取りまとめ、発表することとします。

参加者は、それぞれのグループの市長候補になると同時に、北海東北市の一市民として各グループのマニフェストを比較検討し、市の将来を托すにはどのグループのマニフェストが最もよいかを判断します。

教材 2 →

## (2)設定条件

### ①北海東北市の概要

- ・人口約30万人で、少子高齢化の影響で人口は減少傾向にあります。
- ・県のほぼ中央に位置し、北は海に面し、南西部は山に囲まれています。
- ・市の基幹産業は米、リンゴ、カシスなどの農業と湾内で養殖するホタテ、なまこなどの漁業が中心です。
- ・財政状況は県内で上位に位置し、他の自治体と比べると比較的良好です。
- ・「特別豪雪都市」に指定されるほど積雪が多く、例年除排雪対策に苦慮しています(特別豪雪都市とは、豪雪地帯対策特別措置法で指定される豪雪地帯のうち、積雪の度が特に高く、かつ、積雪により長期間自動車の交通が途絶するなどにより住民の生活に著しい支障を生ずる地域として、特別に指定された地帯)。

### ②建設または誘致する施設と建設費

ア <u>必ず作る</u> 公共施設	利雪・親雪研究施設(30億円)
イ <u>一つだけ</u> 作れる公共施設	自然公園(10億円) 職業訓練施設(20億円) 図書館(30億円) 要介護施設(20億円)
ウ <u>一つだけ</u> 誘致できる民間施設	幼保連携施設(20億円) アウトレットモール(40億円) <b>白ワク工場(40億円)</b>

白ワク工場は、研修参加者のアイデアが生かせる「自由設定事業」。

### ③建設または誘致できる場所

- ・ A地区
- ・ B地区
- ・ C地区

### ④予算額

- ・ 100億円以内に抑えることを絶対条件とします。
- その上で、政策上必要(特に強調したい施設であるとか、特徴のある施設にす

るために一層施設設備を充実させたい)等の理由であれば、予算額の範囲内で他の建設費とのやりくりを認めます。

なお、「施設建設後に想定される費用(例)」を記載したのは、施設建設費だけで施設の運営ができるものではなく、施設建設後に想定される費用も必要であること、従って、それらを含めると膨大な予算になることを理解してもらう理由からです。

### (3)準備する物

#### ①資料

- ・資料5「北海東北市地図」35頁
- ・資料6「建設または誘致する施設一覧」36頁

#### ②ワークシート

- ・ワークシート2「マニフェスト検討シート」37頁

#### ③資材等

- ・ホワイトボード(マグネット等)
- ・模造紙 — 各グループに2枚ずつ
- ・台紙(模造紙の下に敷くもの)— グループ数分
- ・付箋紙(ポストイット7.5cm角 黄色、ピンク色、青色)— グループ数分
- ・サインペン(中字用 黒色)— 人数分
- ・サインペン(太字用 黒色、赤色、青色の3色)— グループ数分
- ・セロハンテープ — グループ数分
- ・よくできましたシール(付箋紙で代用可)— 人数分
- ・感想文用紙(主催者作成のもの使用)

### (4)構成

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| ①アイスブレイク          | (10分)      |
| ②課題、内容、資料、進め方等の説明 | (15分)      |
| ③活動               | (50分)      |
| ④発表会              | (25分)      |
| ⑤評価               | (10分)      |
| ⑥学習のふりかえり、まとめ     | (10分) 計2時間 |



## (5)進め方

### ①アイスブレイク(10分)

※教材1を参考にしてください。

### ②課題、内容、資料、進め方等の説明(15分)

演習要領(1)、資料5「北海東北市地図」、資料6「建設または誘致する施設一覧」、ワークシート2「マニフェスト検討シート」を用いて、分かりやすく短時間で説明するように工夫します。あわせて、投票率の現状(資料1)なども紹介します。

### ③活動(50分)

#### ア グループ分けと役割分担

なるべく所属団体、居住地域、職業、男女、年齢等がばらけるように、5～6人程度のグループを作ります。自己紹介の後で、司会者(グループの進行係)、発表者を決めてください。

#### イ 個人で検討(10分)

資料5「北海東北市地図」、資料6「建設または誘致する施設一覧」を基に、各人でA地区、B地区、C地区の3つの地区にどの施設を建設または誘致して、どのようなまちにしたいかを考え、ワークシート2「マニフェスト検討シート」に記入してください。

#### ウ グループ内で検討(15分)

個人で検討した結果を発表し合い、グループとしての意見にまとめてください。

#### エ マニフェスト作成(25分)

グループ内での検討結果をマニフェストとしてまとめ、模造紙に書き込んでください。

<マニフェストに記載する内容>

- ・グループ名
  - ・候補者名(発表者名)
  - ・まちづくりのテーマ
  - ・各地区に建設または誘致する施設名、予算額、理由
- ※自由な発想でマニフェストを作成してください。



ユニークなものを!

#### ④マニフェスト発表(25分)

各グループの発表者がマニフェストを発表する。なお、各グループの持ち時間は質疑応答を含めて6分以内とします。

<発表内容>

- ・発表者あいさつ
- ・まちづくりのテーマ発表
- ・各地区に建設または誘致する施設の発表

#### ⑤評価(10分)

各グループのマニフェストを比較し、どこのグループのマニフェストが最もよいと思うかを評価し、「よくできましたシール」を貼付します。ただし、自分のグループには貼付できないこととします。

各活動時間は目安なので、時間配分は各グループの自由としますが、マニフェストを完成させる時間は厳守してください。

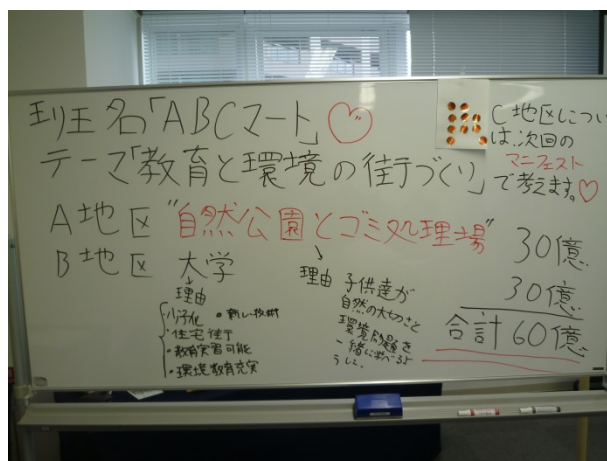
#### ⑥学習のふりかえり、まとめ(10分)

※教材1を参考にしてください。

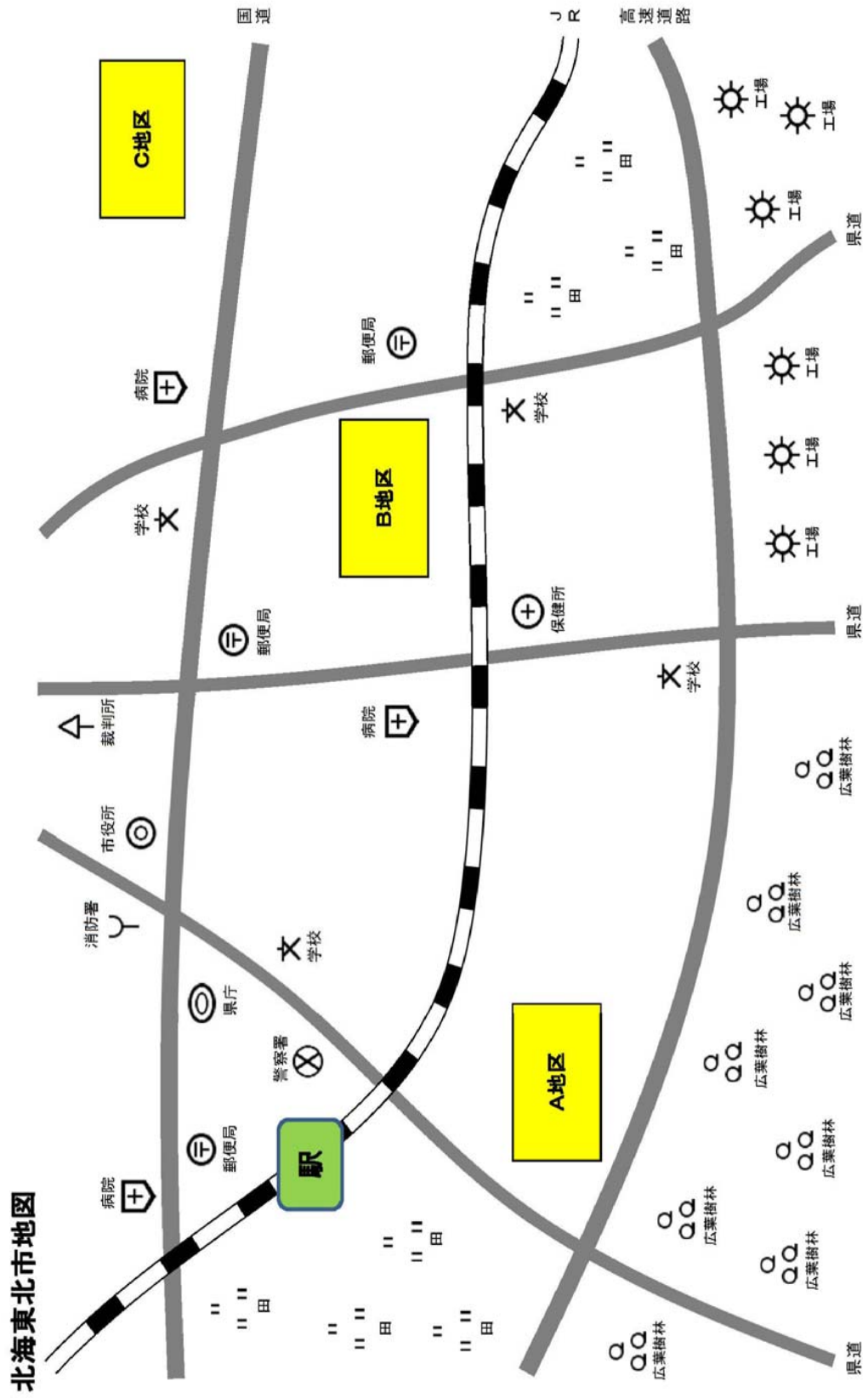
### (6)役割

- ・ファシリテーター
- ・司会者
- ・発表者
- ・参加者
- ・助言者

※教材1を参考にしてください。



＜資料 5＞ 北海東北市地図



＜資料6＞ 建設または誘致する施設一覧

区分	施設名	建設費	主な効果等	施設建設後に想定される費用(例)
必ず作る 公共施設	利雪・親雪研究施設	30億円	北海東北市は特別豪雪地帯に指定されるほど積雪の度が高いことから、市民から大きな期待が寄せられている。	人件費、維持管理費、 建設費の償還
	自然公園	10億円	環境保全や市民の憩いの場、さらには緊急時の避難場所としても利用できる。	人件費、維持管理費、 建設費の償還
一つだけ作 れる公共施 設	職業訓練施設	20億円	リカレント教育や雇用機会の拡大につながる高度の訓練を目指す施設として、幅広い層の市民から期待されている。	人件費、維持管理費、 建設費の償還
	図書館	30億円	電子図書館としての新しい機能を備えた施設を建設することで、市民の学習意欲の向上と文化都市の形成に役立つ。	人件費、維持管理費、 建設費の償還、書籍購入費
	要介護施設	20億円	超高齢社会の到来が予想され、要介護認定者の一層の増加が見込まれることから、いつでも安心して介護が受けられるようにする。	人件費、維持管理費、 建設費の償還、医療機器購入費
	幼保連携施設	20億円	少子化の進展が著しい現状を踏まえ、保育・幼児教育サービスの向上をめざす。	
	アウトレットモール	40億円	観光客が増加し、買い物客で街が賑わう。	
一つだけ誘 致できる民 間施設	白ク工場	40億円	地域の雇用創出につながり、税収も増える。 (注)研修参加者のアイデアが生かせる「自由設定事業」	

＜ワークシート2＞ マニフェスト検討シート

氏名 \_\_\_\_\_

グループ名	
発表者 (候補者)	
司会者	
まちづくり のテーマ	

地区名	施設名	理由	予算額
A地区			億円
B地区			億円
C地区			億円

## 教材3 「有権者の意識を知って、投票率向上の方策を探る」

38～49頁

私たちは、日頃、人との話し合いや討論を通して多様なものの見方や考え方のあることを知り、それらを基に自分の思いや考えを整理し、方向づけたりしています。また、身近な課題や提言等に対して、その重要性や必要性の度合いに応じた優先順位をつけ、客観的に整理しながら合意を形成していくこともあります。まさに「ランキング」や「ダイヤモンドランキング」の手法を活用しているということができるとでしょう。ランキングの効用は、他者の考えを理解するとともに、多様な見方があることを理解することです。そして集団の合意形成を図るためのスキルやノウハウを培うトレーニングになります。

この教材は「ランキング」や「ダイヤモンドランキング」の手法を用いて、有権者（各年齢層）の選挙に対する意識や投票行動を探るとともに、投票率の向上について考え、実践活動へつなげていくことをねらいとしています。

### 1 趣旨

成人を対象に、政治・選挙に対する意識や投票行動の実態を知り、投票率向上の方策を探るとともに地域活動への参加意欲を高める。

### 2 テーマ

「投票率向上の方策を探る」

— 「多くの意見を聴き、自分の考えをまとめよう」 —

### 3 所要時間

2時間程度

### 4 演習要領

#### (1) 投票行動の実態を探り、投票率の向上を図ろう！

示された15個の、政治・選挙に関する意識調査の「投票を棄権した理由」について、先ず各人で「棄権した割合が高かったと思う」順にランク付けをし(ランキング)、次いでグループとしての順位をまとめ(ダイヤモンドランキング)、全体会での発表、討論に臨みます。

## (2)準備する物

### ①資料

- ・資料1「年齢別投票率」21頁
- ・資料7「意識調査・選挙を棄権した理由(年齢別)」43頁

### ②ワークシート

- ・ワークシート3「ワークショップ作業メモ」44頁
- ・ワークシート4「ランキング・選挙を棄権した理由」46頁
- ・ワークシート5「ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由」47頁
- ・ワークシート6「月面の危機」48頁
- ・ワークシート7「地域課題」49頁

## (3)構成

- |                   |       |      |
|-------------------|-------|------|
| ①アイスブレイク          | (10分) |      |
| ②課題、内容、資料、進め方等の説明 | (15分) |      |
| ③活動               | (50分) |      |
| ④発表会              | (25分) |      |
| ⑤評価               | (10分) |      |
| ⑥学習のふりかえり、まとめ     | (10分) | 計2時間 |

## (4)進め方

### ①アイスブレイク(10分)

アイスブレイクで全体の雰囲気や和らげ、参加意欲を高めます。

### ②課題、内容、資料、進め方等の説明(15分)

「ランキング」、「ダイヤモンドランキング」の理解と活用、作業手順について説明します。

### ③活動(グループ内50分)

ア グループ分けと役割分担(10分)

6人程度のグループに分かれ、自己紹介の後、司会者(グループ)と発表者を決めます。

イ 個人順位・ランキング(10分)

自分のこれまでの投票経験や知り合い・隣人等の投票行動を参考にしながら、下記の「選挙を棄権した理由」15項目について、「意見(棄権理由)」が多かつ

ワークシート3を使用します。

た」と思う順に、その記号をワークシート4「ランキング・選挙を棄権した理由」の個人順位欄に記入します。

#### 選挙を棄権した理由

- a 仕事があったから
- b 重要な用事(aを除く)があったから
- c 病気だったから
- d 体調がすぐれなかったから
- e 投票所が遠かったから
- f 面倒だから
- g 選挙にあまり関心がなかったから
- h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから
- i 適当な候補者も政党もなかったから
- j 私一人が投票してもしなくても同じだから
- k 選挙によって政治はよくなると思ったから
- l 今住んでいるところに選挙権がないから
- m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)
- n その他
- o わからない

#### ウ グループとしての順位・ダイヤモンドランキング(10分)

個人順位を発表し合った後で、グループ内でそれぞれの順位や理由、投票率の向上策を提案しあいながら、グループとしての順位をまとめ、ワークシート5「ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由」に記入します。ただし、10位以下になると思う項目をはずし、9個記入します。

一人一人が決めた順位と対比させながら、グループとしてのランキングを決定する際の協議が、感情的にならないように配慮します。

#### エ 実際順位との比較及び意見交換(20分)

グループ別ランキングを発表し合った後で、過去の実績順位(意識調査結果資料7)と比較し、自分たちのグループのランキングとの差異について、感想や意見を出し合います。

次いで、自分の経験及び近隣住民の選挙への取り組みや投票率の現状等から考えて該当すると思われる項目に注目しながら(○を付けるなど)、投票率の向上を図る方策について意見交換をします。



各グループに与えられた  
発表時間内で終える工夫  
をします。

#### ④発表会(25分)

発表・質疑応答(1グループ 5～7分程度)

#### ⑤評価

助言者による評価に加え、参加者個々の、さらには参加者相互の意見交換による評価も大事にしたいものです。

#### ⑥学習のふりかえり、まとめ(10分)

ワークショップの結果(現象)ばかりに注目するのではなく、全体でのふりかえりを行い、共有事項の確認を忘れないようにします。

- ・有権者は、「投票率の現状」をどのくらい理解しているのだろうか？
- ・「投票に行かない理由」からどんなことが分かり、どんな対策が必要なのだろうか？
- ・選挙(投票)や「明るい選挙推進運動」の意義と社会的使命等を理解し、進んで投票するとともに、家族や知人・友人等へ広く投票を働きかけるなどの約束をします。
- ・さらに、投票率を高めるために話し合った方策を、今後の活動に活かしていくことを確認し合います。
- ・何のための「ランキング」、「ダイヤモンドランキング」への取組みだったのかも確認します。
- ・ファシリテーターがまとめます。
- ・お互いに、それぞれの協力に感謝し合って、終了します。

#### (5)役割

- ・ファシリテーター(全体指導者)
  - ・司会者(グループでの進行係)
  - ・発表者
  - ・参加者
  - ・助言者
- ※教材1を参考にしてください。

## 5 研修の充実

### ○棄権した理由

棄権した理由を年齢別に検討すると、より具体的になります。

### ○カード化

ランキングのためのキーワード(ここでは棄権理由の各項目)が、予め決められている場合は、キーワードをカード化し、切り取って貼れるようにすると作業が楽しくなります。

### ○ランキングとダイヤモンドランキングの特徴や活用上の留意点

この教材では、個人のランキングは「ランキング」の手法、グループのランキングは「ダイヤモンドランキング」の手法を採用しました。その理由は、参加者に2つの手法を理解して欲しいことと、もう一つは、後者も「ランキング」手法にすると、メンバー構成やグループの人数が多い時などにランク付けに時間がかかり過ぎることを懸念し、比較的まとめやすい「ダイヤモンドランキング」を活用しています。

### ○ランキングについて

この教材では、「選挙を棄権した理由」を尋ねる意識調査で、回答の多かった選択肢の順を、参加者に考えてもらう方法を取っています。ランキングの一般的な使用方法では、参加者が自分にとって重要・必要だと考える順位をつけ、その理由等を整理し、グループで意見交換、討議する方法が取られます。重要だと考えるものから順位をつけることによって、課題に対する優先度を明らかにすることができます。ランキングする素材として、映像資料やブレインストーミングで出されたアイデアなども使えます。

ワークシート6と7を使います。

### ㊤ ゲーム「月面の危機」

最初に「月面の危機」ゲームを試みると、研修への期待感が高まります。「ランキング」の感じをつかんでもらうとともに、「正解(あるいは結果)」のあるものがないものを確認することができます。このゲームは、アメリカのNASA(航空宇宙局)で開発されたグループ討論のゲームです。

回答作業に多くの時間をかけることが本意ではないことから、ワークシート6では「NASAの専門家であれば当然妥当な答えを出せるであろう」ことを、7「地域課題」の方は回答が得にくい例があることを理解できればいいこととし、意見をまとめることはしません。

〈資料7〉 意識調査・選挙を棄権した理由(年齢別)

選挙を棄権した理由	20歳代 (%)	40歳代 (%)	60歳代 (%)	平均 (%)
a 仕事があったから	39.3	20.6	16.4	27.0
b 重要な用事(aを除く)があったから	21.4	22.2	25.5	24.1
c 病気だったから	0	1.6	16.4	6.5
d 体調がすぐれなかったから	3.6	4.8	16.4	11.4
e 投票所が遠かったから	1.8	0	0	0.8
f 面倒だから	10.7	12.7	1.8	7.8
g 選挙にあまり関心がなかったから	17.9	17.5	10.9	14.9
h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから	17.9	19.0	12.7	12.4
i 適当な候補者も政党もなかったから	16.1	23.8	14.5	18.4
j 私一人が投票してもしなくても同じだから	12.5	7.9	5.5	9.7
k 選挙によって政治はよくなるかと思っただから	16.1	9.5	10.9	10.8
l 今住んでいるところに選挙権がないから	1.8	0	0	0.3
m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)	5.4	0	0	1.4
n その他	0	6.3	7.3	4.1
o わからない	1.8	0	0	0.5

(第22回参院選に関する意識調査 平成22年8～9月調査 明るい選挙推進協会)

## <ワークシート3> ワークショップ作業メモ

グループ名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

研修テーマ : 「投票率向上の方策を探る」

### 1 有権者(各年齢層)が選挙を棄権する理由を探る

#### ① 「ランキング」(個人順位)

自分のこれまでの経験や隣人等の投票行動の様子から、自分が思う順位をメモしてください。

#### ② 「ダイヤモンドランキング」(グループ順位)

グループ内で話し合い、グループとしての順位をメモしてください。

#### ③ 実際順位の発表

全体への回答(結果)を示すために、過去の実績順位をメモしてください。

#### ④ 話し合い

これまでの個人順位、グループ順位、実際順位について、なぜ、異なった結果が出たのか、グループ内で話し合い、意見や感想をまとめてください。

1

2

3

2 有権者の投票率向上を図る方策は何か

「ランキングカード」(実際順位)のうち、自らの経験や隣人等の投票行動、投票率の現状等から考えて該当すると思われる項目に注目しながら(○を付けるなど)、有権者の投票率向上を図る方策についてグループ内で話し合います。

次いで、それらの対策を全体会で報告し合います。

私たちは、有権者の選挙に対する意識や実態をどのくらい理解していたのだろうか？

どうすれば、投票率の向上を図ることができるのだろうか？

その対応策を話し合い、グループとしての対策を提案しましょう。

1
2
3

①特に強調したいこと・提言したいこと(グループの「トップ提案」は何か?)

--

②有権者各年齢層の投票率向上に向けた決意など

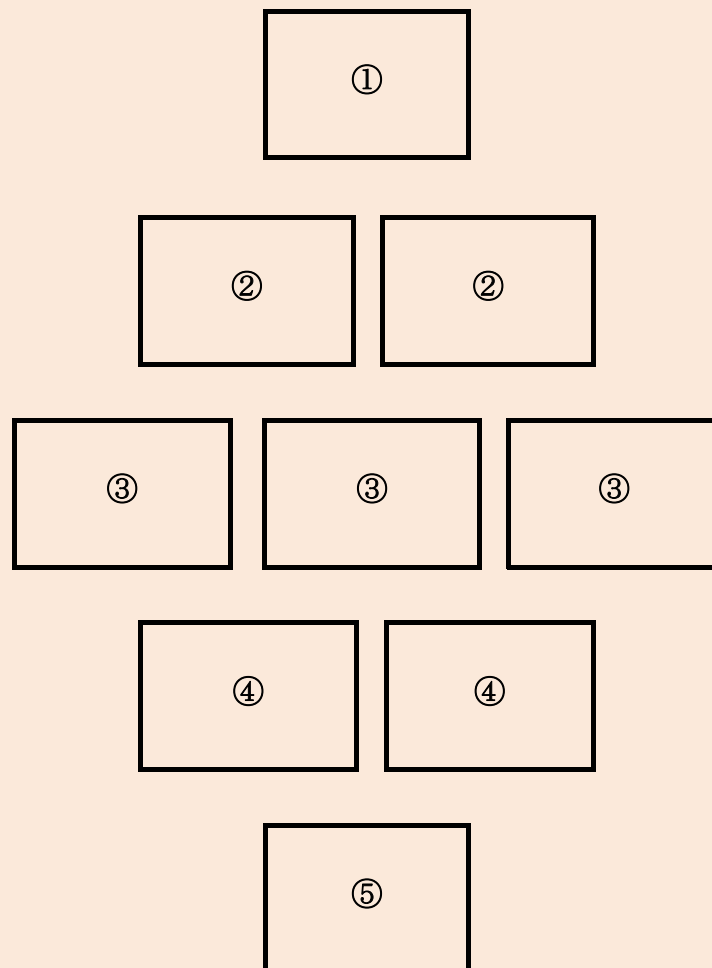
--

☆A 4判2枚

〈ワークシート4〉 ランキング・選挙を棄権した理由(メモ用)

選挙を棄権した理由	個人順位	グループ 順位	実際順位
a 仕事があったから			
b 重要な用事(aを除く)があったから			
c 病気だったから			
d 体調がすぐれなかったから			
e 投票所が遠かったから			
f 面倒だから			
g 選挙にあまり関心がなかったから			
h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから			
i 適当な候補者も政党もなかったから			
j 私一人が投票してもしなくても同じだから			
k 選挙によって政治はよくなるから			
l 今住んでいるところに選挙権がないから			
m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)			
n その他			
o わからない			

〈ワークシート5〉 ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由  
(グループ順位)と(実際順位)で使用



「選挙を棄権した理由」(外したもの→10～15位)：

## 〈ワークシート6〉 月面の危機

「正解あるいは結果の得られる事例」

あなたは宇宙飛行士です。いま、あなたが乗っている月面車は、機械の故障で遭難しています。月着陸母船は、遭難地点から約300km離れた太陽の当たっている場所に到着していることは確認されています。

遭難したためにほとんどの機械は使えなくなりましたが、次の15品目だけは使えることが分かりました。

あなたが月着陸母船に到達するために、もっとも必要だと思われる品目から順に全部に順位をつけてください。

品名	個人	グループ
マッチ箱		
濃縮された宇宙食(固形)		
15フィートのナイロンロープ		
パラシュートの絹糸		
ポータブルの暖房器具		
45口径ピストル2丁		
粉乳1ケース		
100ポンドの酸素入りボンベ2本		
月の星座図		
救命イカダ		
磁石の羅針盤		
5ガロンの水		
発火信号		
注射器の入った救急箱		
太陽電池のFM送受信器		



## 〈ワークシート 7〉 地域課題

「正解あるいは結果の得にくい事例」

A町の地域青年団体は、年々団員の減少とともに、現在103人の団員の活動も不活発になり、解散の声さえ出ています。そこで、定期総会の際、不活発な原因を追究するため、リーダーに次の10項目を提示して話し合うことにしました。aからjまで全部について、あなたが不活発の原因だと思う順位をつけてください。

項目	個人	グループ
a 団員に、地域に奉仕する気持ちがうすい。		
b 過疎化により、都市への流出が多く、活動する団員がいない。		
c 目先の娯楽に心が奪われ、団体活動に魅力を感じない。		
d 他人に甘える気持ちが強く、リーダーまかせの団員が多い。		
e 団活動に魅力を失い、途中で退団してしまう者が多い。		
f 団員の減少に伴い、組織が広域化し活動が複雑で困難になった。		
g 青年団体活動の目的を理解していない団員が多い。		
h リーダーが若年化し、団員の要求を把握したり、リードができなくなった。		
i 自分たちのことだけに夢中で、地域課題を学んだり、解決しようという意気込みがない。		
j 仕事が多忙で、せつかく入団しても積極的に活動ができない。		

## 教材4「若者の意識を知って、若者の投票率向上の方策を探る」

50～60頁

私たちは、日頃、人との話し合いや討論を通して多様なものの見方や考え方のあることを知り、それらを基に自分の思いや考えを整理し、方向づけたりしています。また、身近な課題や提言等に対して、その重要性や必要性の度合いに応じた優先順位をつけ、客観的に整理しながら合意を形成していくこともあります。まさに「ランキング」や「ダイヤモンドランキング」の手法を活用しているということができでしょう。

有権者の低い投票率が大きな課題となっていますが、若い有権者のそれはもっと深刻な状況になっていると憂慮されています。この教材は、「ランキング」と「ダイヤモンドランキング」の手法を用い、若い有権者の選挙に対する意識や投票行動を探るとともに、若い有権者の投票率の向上について考え、実践活動へつなげていきたいと思えます。

### 1 趣旨

明るい選挙推進運動へ理解を示す成人を対象に、若者の投票行動の現状を話し合い、投票率向上の手立てを探ります。

### 2 テーマ

「若者の投票率向上の手立てを探る」

— 多くの意見をまとめ、実践活動に活かそう —

### 3 所要時間

3時間程度

### 4 演習要領

#### (1)若者の投票行動の実態を探り、投票率の向上を図ろう！

示された15個の、政治・選挙に関する意識調査の「選挙を棄権した理由(20歳代)」について、各参加者が「棄権した理由として割合が高かったと思う」順にランク付け(ランキング)をし、次いで、グループ内でその順位や理由、若者の投票率向上について話し合いながら、グループとしての順位(ダイヤモンドランキング)をまとめ、全体会での発表・討論に臨みます。

教材4→

## (2)準備する物

### ①資料

- ・資料1「年齢別投票率」21頁
- ・資料8「意識調査・選挙を棄権した理由(20歳代)」54頁
- ・資料9「意識調査・若者の投票率向上策」55頁

### ②ワークシート

- ・ワークシート8「ワークショップ作業メモ」56頁
  - ・ワークシート9「ランキング・選挙を棄権した理由(20歳代)」58頁
  - ・ワークシート10「ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由  
(20歳代)」59頁
  - ・ワークシート11「ランキング 若者の投票率向上策」60頁
- 他は、教材1を参考にしてください。

## (3)構成

- |                   |       |      |
|-------------------|-------|------|
| ①アイスブレイク          | (15分) |      |
| ②課題、内容、資料、進め方等の説明 | (20分) |      |
| ③活動               | (90分) |      |
| ④発表会              | (30分) |      |
| ⑤評価               | (10分) |      |
| ⑥学習のふりかえり、まとめ     | (15分) | 計3時間 |

## (4)進め方

### ①アイスブレイク(15分)

アイスブレイクで全体の雰囲気をはげまし、参加意欲を高めま。

### ②課題、内容、資料、進め方等の説明(20分)

「ランキング」・「ダイヤモンドランキング」の理解と活用、参考資料や作業手順について説明します。

ワークシート8を使用します。

### ③活動(グループ内 90分)

ア グループ分けと役割分担(15分)

6人程度のグループに分かれ、自己紹介のあと、司会者(グループ)と発表者を決めます。

#### イ 個人順位・ランキング(15分)

自分のこれまでの投票経験や知り合い・近隣の若者の投票行動を参考にしながら、下記の「選挙を棄権した理由(20歳代)」15項目について、「20歳代の有権者の棄権理由として多かった」と思う順に、その記号をワークシート9「ランキング・選挙を棄権した理由(20歳代)」の個人順位欄に記入します。

##### 選挙を棄権した理由

- a 仕事があったから
- b 重要な用事(aを除く)があったから
- c 病気だったから
- d 体調がすぐれなかったから
- e 投票所が遠かったから
- f 面倒だから
- g 選挙にあまり関心がなかったから
- h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから
- i 適当な候補者も政党もなかったから
- j 私一人が投票してもしなくても同じだから
- k 選挙によって政治はよくなると思ったから
- l 今住んでいるところに選挙権がないから
- m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)
- n その他
- o わからない

#### エ グループとしての順位・ダイヤモンドランキング(25分)

個人順位を発表し合った後で、グループとしての順位をまとめ、ワークシート10「ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由(20歳代)」に記入します。ただし、10位以下になると思う項目をはずし、9個記入します。

#### オ 実際順位との比較及び意見交換(35分)

グループ別ランキングを発表し合った後で、実際順位(資料8)と比較し、自分たちのグループのランキングとの差異について、感想や意見を出し合います。

次いで、若者の投票率の向上策について意見交換をします。自分のこれまでの投票経験や近隣若者の選挙への取り組み、若者の投票率の現状等、政治・選挙に関する意識調査の「若者の投票率向上策」に関する質問項目(ワークシート11、資料9)に注目しながら(○を付けるなど)、話し合ってください。

#### ④発表会(全体30分)

発表・質疑応答(1グループ 5～7分程度)

各グループに与えられた発表時間内で終える工夫をします。

#### ⑤評価(10分)

※教材1を参考にしてください。

#### ⑥学習のふりかえり・まとめ(15分)

ワークショップの結果(現象)ばかりに注目するのではなく、全体でのふりかえりを行い、共有事項の確認を忘れないようにします。

- ・若い人たちの意識や投票率の現状を、大人はどのくらい理解しているか。
- ・若者が投票に行かない理由から何が分かり、どんな対策が必要か。
- ・若者が選挙(投票)の意義や機能を知り、さらには市民としての社会的役割を理解し、進んで投票するよう、家族や知人・友人等へ広く働きかける。
- ・若者の投票率を高めるために話し合った方策を、今後の活動に活かしていく。
- ・何のための「ランキング」、「ダイヤモンドランキング」の取り組みだったか。

ファシリテーターがまとめをします。お互いに、それぞれの協力に感謝し合って、終了します。

#### (5)役割

- ・ファシリテーター(全体指導者)
- ・司会者(グループでの進行係)
- ・発表者
- ・参加者
- ・助言者

※教材1を参考にしてください。

#### 6 研修の充実

- ・カード化
- ・ランキングとダイヤモンドランキングの特徴や活用上の留意点
- ・ゲーム「月面の危機」

※教材3を参考にしてください。

<資料8> 意識調査・選挙を棄権した理由(20歳代)

選挙を棄権した理由	%
a 仕事があったから	39.3
b 重要な用事(aを除く)があったから	21.4
c 病気だったから	0
d 体調がすぐれなかったから	3.6
e 投票所が遠かったから	1.8
f 面倒だから	10.7
g 選挙にあまり関心がなかったから	17.9
h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから	17.9
i 適当な候補者も政党もなかったから	16.1
j 私一人が投票してもしなくても同じだから	12.5
k 選挙によって政治はよくならないと思ったから	16.1
l 今住んでいるところに選挙権がないから	1.8
m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)	5.4
n その他	0
o わからない	1.8

(第22回参院選に関する意識調査 平成22年8~9月調査 明るい選挙推進協会)

<資料9> 意識調査・若者の投票率向上策

向上策	%
a 学校教育の段階でもっと政治や選挙の重要性を教える	30.5
b 地域での社会教育の場で、もっと政治や選挙の重要性を訴える	21.5
c 若者が政治や選挙に関心を持つように選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会などがもっと工夫をこらす	29.8
d テレビ、ラジオなどのマスメディアをもっと活用し、政治や選挙の重要性を訴える	31.4
e もっと選挙運動を自由にして、選挙に関する関心や参加を高める	21.4
f その他	4.3
g わからない	11.4

(若い有権者の意識調査(第2回) 平成9年9～10月調査 明るい選挙推進協会)

## <ワークシート8> ワークショップ作業メモ

グループ名： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

研修テーマ：「若者の投票率向上の手立てを探る」  
——「多くの意見をまとめ、実践活動に活かそう」——

### 1 若者が選挙を棄権する理由を探る

#### ①「ランキング」(個人順位)

自分のこれまでの経験や近隣若者の投票行動の様子から、自分が思う順位をワークシート9「ランキング」(メモ用)の「個人順位」欄にメモしましょう。

#### ②「ダイヤモンドランキング」(グループ順位)

グループ内で話し合い、グループとしての順位をワークシート10「ダイヤモンドランキング」(メモ用)の「グループ順位」欄にメモしましょう。

#### ③実際順位の発表

全体への解答(結果)を示すために、「若い有権者の意識調査(第2回)」(平成10年3月)の結果を、ワークシート9「ランキング」(メモ用)の「実際順位」欄にメモしましょう。

#### ④話し合い

これまでの個人順位、グループ順位、実際順位との差異について、なぜ、異なった結果が出たのかについてグループ内で話し合い、グループとしての意見や感想をまとめましょう。



2 若者の投票率向上を図る手立ては何か

ワークシート11「ランキング」(実際順位)のうち、自らのこれまでの投票経験や近隣若者の投票行動及び投票率の現状等から考えて、該当すると思う項目に注目しながら(○を付けるなど)、若者の投票率向上を図る手立てをまとめましょう。

- ①「私たちは、若者たちの意識をどのくらい理解していたのだろうか?」、  
「どうすれば、若者が選挙に行くようになるのか?」についてグループ内で話し合い、その結果を全体会で報告し合しましょう。

- ②「どうすれば、若者の投票率を向上させることができるのだろうか?」・・・  
その具体的な手立てを全体会で話し合い、まとめましょう。

※グループとしての手立てを提案しましょう。

- ①特に強調したいこと・提言したいこと(グループの「トップ提案」は何か?)

- ②若者の投票率向上に向けた決意など

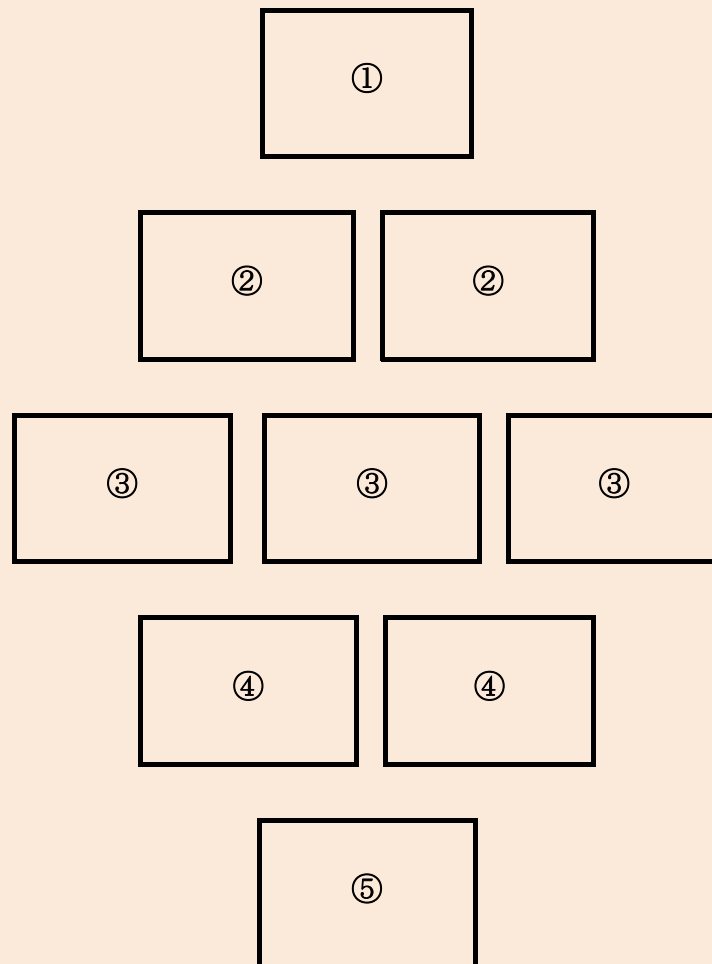
☆A4判2枚

<ワークシート9>ランキング・選挙を棄権した理由(20歳代)(メモ用)

選挙を棄権した理由	個人順位	グループ順位
a 仕事があったから		
b 重要な用事(aを除く)があったから		
c 病気だったから		
d 体調がすぐれなかったから		
e 投票所が遠かったから		
f 面倒だから		
g 選挙にあまり関心がなかったから		
h 政党の政策や候補者の人物像がよくわからなかったから		
i 適当な候補者も政党もなかったから		
j 私一人が投票してもしなくても同じだから		
k 選挙によって政治はよくなれないと思ったから		
l 今住んでいるところに選挙権がないから		
m 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)		
n その他		
o わからない		

<ワークシート10> ダイヤモンドランキング・選挙を棄権した理由  
(20歳代)

(グループ順位)と(実際順位)で使用



「選挙を棄権した理由」(外したもの→10~15位)：

<ワークシート11> ランキング・若者の投票率向上策

(メモ用)

若者の投票率向上策	個人順位	グループ順位
a 学校教育の段階でもっと政治や選挙の重要性を教える		
b 地域での社会教育の場で、もっと政治や選挙の重要性を訴える		
c 若者が政治や選挙に関心を持つように選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会などがもっと工夫をこらす		
d テレビ、ラジオなどのマスメディアをもっと活用し、政治や選挙の重要性を訴える		
e もっと選挙運動を自由にして、選挙に関する関心や参加を高める		
f その他		
g わからない		

## 教材5 「ニュース番組を使ったメディア・リテラシーワーク ショップ」

～メディア・リテラシー入門 「問い」を持ってメディアとつきあうために～

61～74頁

### 1 学習の目標

- ①私たちがメディア社会を生きていることに気づき、メディアについて学ぶ必要性を理解すること。
- ②メディアについて自律的に考えるための手がかり(基本概念、メディア研究モデル)について、理解すること。
- ③ワークショップという学びの場でメディア分析を経験して、基本概念を理解すること。

### 2 メディア・リテラシーが求められている背景

#### (1)メディア社会

メディア・リテラシーとは、市民がメディアに対する能動性を身につけ、メディアを使ってコミュニケーションをつくりだす複合的な能力である。そして、そのような力を育てる取り組みや教育活動をメディア・リテラシー教育と呼んでいる。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、携帯電話、ゲーム、DVDなど多種多様なメディアからの情報が私たちの生活文化そのものとなっている現在、メディアを多面的に分析することを通して私たちが社会について思考し、発信していくメディア・リテラシーの学びは、生きていく上で欠くことができないと言っても過言ではないだろう。

というのは、私たちが社会について知っていると思っていることは、直接経験すること以外はすべてメディアからの情報に依っている。しかし、例えばテレビの映像はどんなに自然に見えても、選択と技法によって構成されたメディア作品である。だが、メディア作品がメディア企業の手を経て制作され、私たちの目の前に示されていることはあまり意識されていない。

日頃、子どもたちだけではなく大人でさえ「テレビでそう言っていたから」「インターネットにそう書いていた」と、メディアからの情報を自分たちの判断や行動の根拠にしているのを目にしたことはないだろうか。娯楽としてドラマを見ていても、そこで提示されている人間関係の結び方や女性や男性の生き方を自分自身と重

教材5→

ねて、何かしら日常生活を送る「手本」にしていることはないだろうか。

また、子どもたちの好きなテレビコマーシャルでは、延々と女性や男性の特性や役割、さまざまな人種・民族的背景を持つ人びとに対するステレオタイプ(型にはまった画一的なイメージ)な見方が提示されている。テレビコマーシャルだけではなく広告は、私たちに何かしら商品やサービスを購入することを通して、「美しさ」「健康」「やすらぎ」「人とのつながり」「幸福」を得ることができるかのように、日常的に語りかけている。

しかも、このようなメディア作品は巨大なメディア産業のビジネスとして送り出され、時には社会や政治の動きとも深く連動している。また最近では、インターネットの世界と既存のメディアが、渾然一体となって社会の動きと相互作用を起している。

いま一度、メディアとのつきあい方を振り返ってみよう。

## (2)メディア社会を生きる力として

近年、メディア・リテラシーについて一定の関心は高まっている。だが、よく耳にするのは、メディア・リテラシーは「情報を鵜呑みにしない」とか「正しい情報を取捨選択する」などの心がけや、ジェンダーステレオタイプなどの「ステレオタイプさがし」としての理解である。だが、メディア・リテラシー教育は、心がけを教える教育ではないし、「まちがいさがし」でもない。

メディア・リテラシー教育は、メディアは現実を映し出している鏡ではない、すなわち、「メディアは能動的に読み解かれるべき、象徴的な(あるいは記号の)システムであり、外在的な現実の、確実に自明な反映などではない」(レン・マスターマン著・宮崎寿子訳『メディアを教える クリティカルなアプローチへ』世界思想社、2010年、28頁)という理解に立ち、系統的かつ多面的にメディアを分析する方法を獲得することを通して、学ぶ者のクリティカル(多面的に考える、吟味するという意味で使用している)な思考力を育て、主体的にメディア社会を生きていくための学びである。

求められていることは、まず、私たちが一人の例外もなく「メディア社会」を生きていることを意識することである。そして、メディアからの情報を分析的に捉えることができるようになることである。さらに、分析的に捉えることを通して自分自身のものの考え方や価値観が、メディアとどう関わっているのかを見つめることができるようになることである。そのような学びを通して、メディアの消費者ではなくこの社会を形成する一員として、より望ましいメディア社会を形成していく主体となっていくことである。

ところが、日本では、公的な学校教育システムのもとで系統的なメディア・リテラシー教育はいまだに実施されているとは言えない。学校教育での実施はあくまで

個々の教員や教育委員会単位での個別の事例に留まっており、社会教育でもNPOなどが行なっている状況である。

しかし、日本の放送政策のなかでメディア・リテラシーについてまったく検討されてこなかったわけではない。デジタル化、多チャンネル化、報道による人権侵害の多発などを背景にして1990年代の終わりに数次にわたって、旧郵政省が中心になってメディア・リテラシーについて検討の場を設けた時期がある。それは、「放送分野におけるメディア・リテラシーに関する調査研究会」報告書(2000年6月郵政省)として結実している。そこでは、研究者・放送事業者・NPOなどが議論を重ねて「メディアとの関わりが不可欠なメディア社会における『生きる力』であり、多様な価値観をもつ人々から成り立つ民主社会を健全に発展させるために、不可欠なものである』という合意に達している。

報告書で示された捉え方にもとづいて、メディア・リテラシーを進めていく必要性は、現在もその意義を失ってはいない。むしろ、放送分野だけではなく、インターネットの爆発的な普及や新しいメディアが次々と生まれている現在において、メディア・リテラシーが対象とするメディアの範囲を拡張して捉えていくことが課題となっている。

### (3)メディアについて人間の側から考える

2011年3月11日に関東、東北地方を襲った大地震、津波による未曾有の被害、東京電力福島第一原子力発電所の事故による地球規模の環境汚染というかつてない事態に直面して、私たちはテレビや新聞など主流メディアによる情報の選別とともに、必要な情報が伝えられていない事態が起こっていることに気づかざるを得なかった。

メディア社会をクリティカルに見ると、それは当然起こりうることなのだが、これまでよりもいっそう多くの市民がそのことに気づき、メディアとどのように関係を結んでいくのかを考え始めていると言えるだろう。

同時に、インターネットを通じて発信される「専門家市民」による情報と主流メディアからの情報の乖離にも目を向けることになった。その後、脱原発を求める市民の動きが、ツイッターやフェイスブックといった新しいメディアと連動するという社会現象を生み出すに至っており、メディアと能動的に向き合う重要性はいっそう認識されるに至っている。

しかし、主流メディアへの信頼が失墜する一方で「テレビや新聞の情報は信じられないけど、インターネットの情報は信用できる」という一面的な見方も出てきている。繰り返しになるが、すべてのメディアを対象にして使い手の側からクリティカルにメディアを読み解き、多面的に吟味する力を獲得する必要性がある。

### 3 メディア・リテラシーの定義／基本概念／メディア研究モデル

#### (1) 定義

メディア・リテラシーとは、市民がメディアを社会的文脈でクリティカルに分析し、評価し、メディアにアクセスし、多様な形態でコミュニケーションをつくりだす力をさす。また、そのような力の獲得をめざす取り組みもメディア・リテラシーという。

(鈴木みどり編著『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』、世界思想社、1997年)

定義に示されているように、メディア・リテラシーとは、メディア社会を生きる人間の尊厳に深く関わるコミュニケーション能力とその権利の中核をなすものである。メディアをクリティカルに分析する態度を確立していくことによって、私たちはメディアの側からメディアの視点で社会を見るのではなく、視点を転換して人間の側からメディアに接することになる。さらに、定義でも示しているようにメディア・リテラシーはメディアをクリティカルに分析する力を獲得することにとどまらない。メディアにアクセスすることや多様な形態でコミュニケーションを創り出す能動的な力を獲得することも含まれている。

#### (2) 基本概念(Key Concept)

基本概念は、メディアのさまざまな側面を表現したものである。ここでは、鈴木みどり編『最新Study Guideメディア・リテラシー入門編』(リベルタ出版、2013年)の基本概念を紹介する。基本概念とメディア研究モデルの詳しい解説については同書を参照してほしい。

##### 基本概念

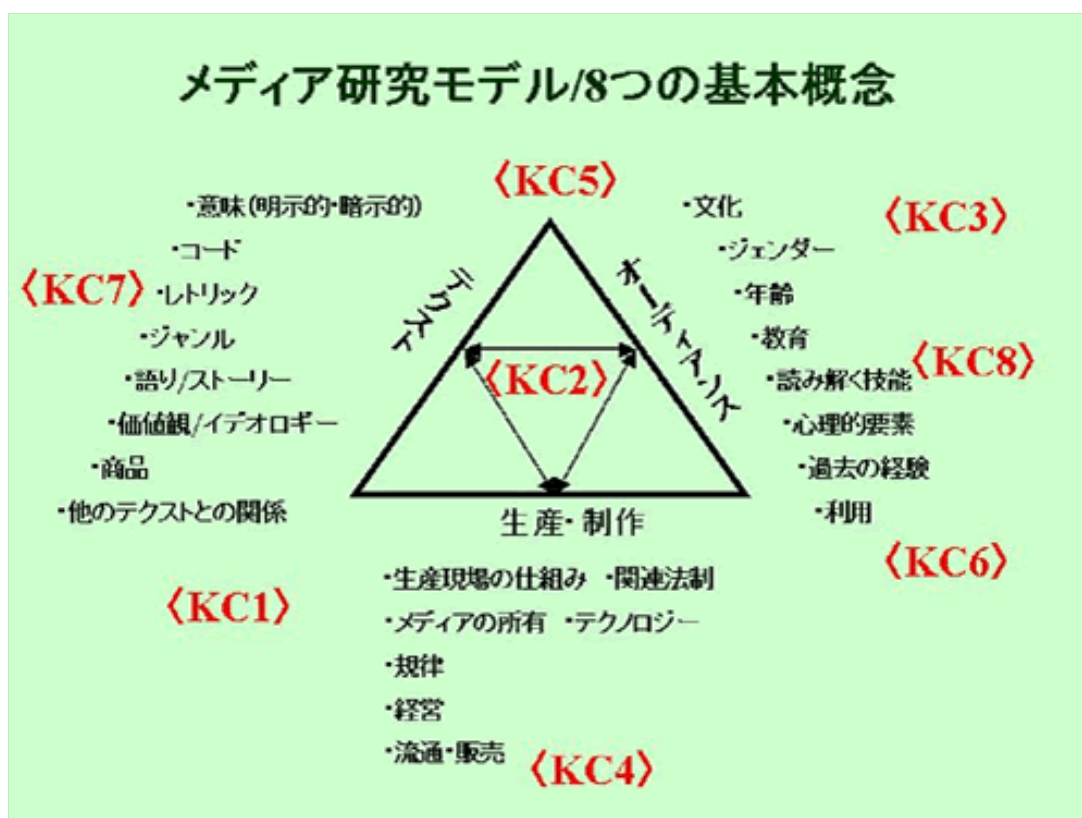
- KC1 メディアはすべて構成されている
- KC2 メディアは「現実」を構成する
- KC3 オーディエンスがメディアを解釈し、意味をつくりだす
- KC4 メディアは商業的意味をもつ
- KC5 メディアはものの考え方(イデオロギー)や価値観を伝えている
- KC6 メディアは社会的・政治的意味をもつ
- KC7 メディアは独自の様式、芸術性、技法、きまり／約束事をもつ
- KC8 クリティカルにメディアを読むことは、創造性を高め、多様な形態でコミュニケーションをつくりだすことへとつながる

※この教材では、基本概念1、2を中心に据える。



### (3) メディア研究モデル

メディア研究モデルは、テレビ番組や新聞記事、インターネットサイトなどふだん、私たちが「メディア」と捉えているものの背景には、それを生み出す制度や仕組みが存在していること(三角形の底辺の要素)、オーディエンス(視聴者、読者)の多様な要素(三角形の右辺の要素)、などがメディアについて学ぶ際に考慮に入れるべき要素であることを示している。



## 4 学び方

### ○ワークショップ

メディア・リテラシーの学びにおいては、学ぶものがメディアを意識化することが必要である。そのため、ここでは、具体的なメディア分析を行うワークショップを提案する。

### ○メディア分析を経験して「自ら発見する」

ワークショップという学びの場を創るものをファシリテーターと呼ぶが、参加者の発言を促して多面的な「気づき」を引き出すためには、対等な関係で対話を通して新しい発見をしながら学ぶことが重要である。→69頁、5(5)

## 5 ワークショップの組み立て方

テレビのニュース番組を使ったワークショップの組み立て方を説明する。ここでは、学ぶ者がニュース番組の分析方法を学んで、具体的に実証的なデータをつくって、それにもとづいて話し合いを進める。

ニュース番組を見て気づくのは、それが、「映像」と「音声」から構成されていることである。さらに「映像」は、人物や事物をさまざまな映像技法を使いながら構成されている。「音声」は、ナレーション、BGM、現場音などの音声技法を使いながら構成されている。

このようにメディアは、実社会の人びと、出来事、考え方などをそのまま提示するのではなく、映像、音声、文字などの記号を使いながら構成して再提示している（リプレゼンテーション）。

基本概念1「メディアはすべて構成されている」について、まず意識化するために、ニュース番組の一部(後述するように「今日1日の動き」など)を分析素材として使用しながら、映像、音声に着目しつつ、それらを「文字化」していく。映像を文字にする作業は、初めての参加者にとっては、難しく感じるかもしれない。しかし、実証的に、根拠を持ってメディアについて語っていく上では重要な作業のプロセスである。

### (1) 準備するもの

#### ①分析素材(テキスト)

- ・分析素材
- ・分析素材を上映するための機材、スクリーン

#### ②ワークシート

- ・ワークシート12「構成の流れ記入シート」73頁  
各参加者に1枚配布。
- ・ワークシート13「問いのシート」74頁  
各参加者に1枚配布。
- ・グループ用のメモ用紙(A3の紙)、
- ・模造紙とマジック

#### ③資料

説明資料として、メディア・リテラシーの定義、基本概念、メディア研究モデル(64～65頁)を配布してもよい。

## (2)分析素材とワークシートの作り方

メディア・リテラシーにおいて分析素材は無尽蔵である。しかし、一人で分析素材(テキスト)を用意するのは非常に労力を要するので、できるだけ複数人で準備するとよい。準備の段階から学びが始まる。

### 分析素材

①特定の出来事を一斉に報じる日のニュース番組を録画する。年中行事化している日の夕方、または夜のニュースを複数局録画する(たとえば、1月第2月曜日の「成人の日」、5月5日「こどもの日」、6月23日「沖縄慰霊の日」、8月6日「広島原爆投下の日」、8月9日「長崎原爆投下の日」、「総選挙翌日の日」など。できれば全局を対象に録画をし、その際には番組開始から終了までを録画する)。

②録画した全番組を手分けして見て、「今日1日の動き」など各番組がその日の動きをまとめてレポートした部分があれば、それを複数選ぶ。年中行事化している番組を選択する理由は、その日のニュースでは「今日1日の動き」など凝縮して構成されている部分が放送される可能性が高いからである。分析素材の時間量は、多くても6、7分にするとよい。

### ワークシート

では、意識化するための具体的な手だてとして、ワークシート12「構成の流れ記入シート」、ワークシート13「問いのシート」を用意するが、その作り方を説明していこう。

③ファシリテーターは自分で、ワークショップで分析素材にしようと思う番組の該当部分(「今日1日のドキュメント」など)を見ながら、時間の流れに沿って、映像と音声を、「構成の流れ記入シート」に書き出す。

ワークショップの際に使用する分析シートは、記入しやすくするためにセグメント(映像のひとつながり)ごとに区切る。

初めての参加者は、映像と音声の両方を短時間に記入するのは難しいので、音声データを書き入れておくとよい。

④ファシリテーターは、分析素材を準備する過程で、分析対象の「今日1日の動き」に登場する人物、事物、それを撮るカメラワーク(カメラの位置や動き)、色調、テロップなど映像を構成する要素、ナレーション、インタビュー、BGMなど音声を構成する要素に気づくだろう。これらの要素がすべて選択されて、どのようにして自然な流れに見えるように編集されているかに着目しよう。

### (3)時間配分の例

- 自己紹介、進行の説明 (5分)
- メディア・リテラシーとは? (30分)
- ワークショップ「メディアは現実をどう構成するか～ニュース番組の分析から」
  - ・導入(分析素材やシートについて説明) (10分)
  - ・映像を見ながら個人による分析 (20分)
  - ・グループの話し合い (30分)
  - ・発表 (15分)
- まとめ (10分) 計2時間

### (4)グループでの学習の進め方

#### テキストを見る前に

①ファシリテーターは、放送日時、放送局、選択した部分など分析対象について説明する。

ワークシート12「構成の流れ記入シート」を参加者に配布し、記入シートはグループでの話し合いに使用するためのもので、自分用のメモであり、自分の書き方でよいこと、完璧に書き取れないのが当たり前であることを説明する。

#### 見ながら

②次に分析対象(分析素材)を参加者に、通して見せる。

③2度目は、セグメント(映像のひとつながり)ごとに止めて、参加者が記入する時間をつくりながら見せる。

④書き取るのが難しいようであれば、3度目を見せる。あるいは、話し合いの途中で参加者から要望があれば見てもよい。

ここまでが個人による分析作業である。

#### 見た後で

⑤次に、記入したワークシート12「構成の流れ記入シート」を持ち寄って、4～5人のグループをつくる。グループに分かれたら、ファシリテーターは、グループで簡単な自己紹介をした後に、「進行役」「記録役」「発表者」の役割分担をさせる。グループ分けや役割分担も話し合いを活性化させる要素である。

## 問い

⑥つづいて、ファシリテーターは用意した問い(ワークシート 13「問いのシート」)を説明して、グループごとに話し合いに入るように促す。

参加者の人数にもよるが、おおよそ20分くらいをめどに発表に入ることを、あらかじめ参加者に伝えておくとよい。

⑦テキストがどのように構成されているか、各自が記入した分析シート(構成の流れ記入シート)を見ながら、次の点から分析してみよう。

どのような人物(性別/年齢/人種・民族的背景/社会的地位など)や事物が、どのような状況や順序で登場しているか。

⑧どのような映像技法(カメラワークや編集、色調、テロップの使い方など)や音声技法(ナレーションやBGM、効果音など)が使われているか。それらが映像にどのような意味を付け加えているか。

## 学びを深めるために

学びを深めるために、さらに次の問いに沿って話し合うこともできる。

⑨テキストはなぜ、このように構成されているのでしょうか。このニュースをめぐる政治・経済・社会・文化等の背景も考慮に入れて考えてみよう。

⑩このニュースでは取り上げられなかったことがあるか。あるとすれば、それはなぜ取り上げられないのか、考えてみよう。

## グループでの話し合いの共有

⑪一定時間話し合った後に、グループから話し合った内容を全体に発表する。

グループごとに着目する観点が異なり、そのことから参加者は自分たちが気づかなかった点に気づくことができるだろう。また、オーディエンス(視聴者・読者)の多様性にも気づくことができるかもしれない。

研修時間に余裕がある場合は、グループごとに模造紙やマジックを使って発表準備をすると、より議論が深まる可能性がある。

## (5)ファシリテーターの留意点

♪ テキストを自分たちで用意することを通して、ファシリテーター自らが分析素材の構成性について気づくことができる。もし、すでに用意された分析素材を使用する場合でも、必ず事前に「構成の流れ記入シート」を自分で記入して見る必要がある。

さらに、政治的・経済的・社会的・文化的な文脈について学ぶために、分析するニュースについて新聞記事やインターネットサイト、時間がある時は書籍などを通して背景となる情報や多面的な情報について学んでおくとよい。

ただし、ファシリテーターが学んだことについてワークショップが始まる際に多く語りすぎて、参加者の議論を「誘導」しないように注意することも大切である。

- ♪ ファシリテーターは、自分なりに分析をしてワークショップに臨むが、ワークショップではあくまでも参加者が主体的に学び、対話を通して新しい発見をするように進行する。その際に、「正解を求めるのではない」こと、メディアの「意図」を読むのではなく、あくまでも自分自身が分析データにもとづいてどのように「読み解く」のかが、メディア・リテラシーの学びにおいては重要だということを示唆することもできる。
- ♪ ワorkshopでファシリテーターは、可能な限り「教える者」ではなく参加者から学ぶ姿勢をもつことによって、話し合いを活性化させることが大切である。
- ♪ ファシリテーターは、グループの話し合いの際は、質問に答えたり、話し合いが活発ではないグループを訪問して、話し合いの糸口をつくる手助けをする。
- ♪ グループからの発表の際は、印象を語るのではなく実証的に分析をしているかどうかに着目して、実証的に分析をしているグループの発言をクローズアップすることで、重要な点を示唆することもできる。
- ♪ 参加者から、「なぜ、映像を文字化するのか」という質問をされるかもしれない。映像を文字化する理由は、メディアについて印象で話し合うのではなく実証的なデータにもとづいて、根拠をもって発言するためにそのような手順を踏むのである。このような経験が日常生活において、「なぜ、そのように言えるのか」「誰が語っているのか」「それは誰の利益につながるのか」「もっと言えることはないのか」「取り上げられていない点は何か」というような、「問い」をもってメディアに接する態度につながっていく。
- ♪ ファシリテーターにとってもっとも重要なことは、自分自身がメディア社会を生きる一員であり、メディアについて学ぶ必要性を自分の課題として捉えていることである。そのために、参考文献にある書籍を通して学ぶことやメディア・リテラシーのワークショップに参加して学びの経験を重ねることが、楽しく学ぶワークショップのファシリテーターになる近道である。

メディア・リテラシーワークショップでは、特に「アイスブレイク」を行う必要はないと思われる。なぜならば、個人の記入作業を終えるとグループに分かれて話し合うので、そこで自然に打ち解けることができる場合が多いからである。

## 6 今後に向けて～学びを深めるために

この教材では、主として基本概念の1と2について学ぶ組み立てを提案している。もちろん、メディア・リテラシーの学びはここで終わるものではない。

○提案している教材の他には、鈴木みどり『Study guide メディア・リテラシー ジェンダー編』（リベルタ出版、2003）、『最新Study guide メディア・リテラシー 入門編』（リベルタ出版、2013）を参照されると、より体系的な学び方を知ることができる。『最新Study guide メディア・リテラシー入門編』では、インターネットについてメディア・リテラシーのアプローチで学ぶ章を新設しており、ネット社会を分析する学びを提案している。

繰り返しになるが、インターネットについて学ぶ際にもメディア・リテラシーの基本概念や分析モデルを使用して思考を深めることができる。

○分析素材については、『スキヤニングテレビジョン日本版 メディア・リテラシーを学ぶためのビデオパッケージ』が役立つ。

(イメージサイエンス社販売 NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所のサイト<http://www.mlpj.org/pb/index.shtml>から申し込むことができる)

これは、カナダで制作されたメディア・リテラシーを学ぶための映像教材から日本向けに厳選し、日本語訳をつけたものである。「ティーチング・ガイド」もついており、それぞれの教材をどのように使用するのか解説されている。

○NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所では、インターネットサイトを運営しているが、研究プロジェクト(「子ども・若い人たちとメディア」「ジェンダーとメディア」「シニア市民とメディア」「メディア社会と市民」「メディア倫理」)ごとに研究成果や外部リンクを構成している。また、学びを深めるためのオリジナル教材や参考文献も紹介しているので、参考にしてほしい。

## 7 おわりに

メディア・リテラシーの学びはクリティカルなメディア分析を出発点とするが、それだけで終わるのではない。定義に掲げているように「多様なコミュニケーション」を創りだすことを目的としている。これは、私たち一人ひとりが社会を生きる一員として社会に対して発言していく力の獲得をめざしている。とりわけ、子ども・若い人たち、ジェンダー、高齢者市民、さまざまな社会的背景によって社会の周縁に追いやられているマイノリティ市民にとって、このような力の獲得は人間の基本的な権利の確立という意味でも重要である。

NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所が協力して進めた「高槻メディア・リテラシープロジェクト」では、中学生を対象に体系的なメディア・リテラシーの授業を提供したがそこでは、メディア分析からメディア制作という組み立てでプログラムを進行した。

さらに、中学生の学びを応援するために平行して2日間の市民講座を企画・運営したが、1日目はメディア分析、2日目に「スキャニングテレビジョン日本版」を使いながらオルタナティブなメディア分析を行ない、そこで学んだ基本概念の理解をもとにしてグループで映像メディアの制作を行なった。わずか数時間のワークショップでメディア作品が出来上がるが、なによりも、参加者一人ひとりが「自分にも社会に対して発言したいことがあるし、それはできる」ということを学んだことに大きな意義があると思う。

みなさんもぜひ、メディア・リテラシーが誘う豊かな学びの世界に一步踏み出してほしい。



## ＜ワークシート12＞ 構成の流れ記入シート

メディアが構成する「現実」とは

テキスト： 放送日時\_\_月\_\_日 放送局 \_\_\_\_\_ 番組名 \_\_\_\_\_

	映像：	音声：
	場所、登場人物の性別・年齢・人種民族的背景・外見容姿・行動／カメラワーク、テロップ(テ)、色調など	ナレーションの性別・声のトーン、人物の発言内容、BGM・効果音・現場音など、インタビュー(イ)
	(例) スタジオ 女性アナウンサー(20歳代後半) グレー色のスーツ スタジオ全景からアナウンサーの顔のアップに  式典会場遠景から会場内にアップ  男性記者(40歳代) スーツではない	(例)  いつもより低いトーンで 「本日、〇〇式が行われました」  ナレーション 男性 「〇〇式が行われたのは、、、」  高めの声で 「集まったのは、、、」

(c) NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所

☆配布するシートは、例文を消し、書き込めるようにしてください。

☆A3判に拡大してください。

## <ワークシート13> 問いのシート

メディアが構成する「現実」とは

●中心となる基本概念：

- ①メディアはすべて構成されている
- ②メディアは「現実」を構成する

○グループの問い

(1)テキストはどのように構成されているのでしょうか。各自が記入した分析シートを用いて、以下の点から分析してみましょう。

①どのような人物(性別／年齢／人種・民族的背景／社会的地位など)や事物が、どのような状況や順序で登場するか。

②どのような映像技法(カメラワークや編集、テロップの使い方など)や音声技法(ナレーションやBGM、効果音等)が使われているか。それらが映像にどのような意味を付け加えているか。

(2)テキストはなぜ、このように構成されているのでしょうか。このテキストをめぐる政治・経済・社会・文化的背景も考慮に入れて考えてみましょう。

(3)このテキストでは取り上げられなかったことがあるのでしょうか。あるとすれば、それはなぜ取り上げられないのか、考えてみましょう。

☆A3判に拡大してください。

## 教材6「新聞を使ったメディア・リテラシーワークショップ」

～メディア・リテラシー入門 「問い」を持ってメディアとつきあうために～

75～83頁

### 1 学習の目標

- ①私たちがメディア社会を生活していることに気づき、メディアについて学ぶ必要性を理解すること。
- ②メディアについて自律的に考えるための手がかり(基本概念、メディア研究モデル)について、理解すること。
- ③ワークショップという学びの場でメディア分析を経験して、基本概念を理解すること。

### 2 メディア・リテラシーが求められている背景

### 3 メディア・リテラシーの定義／基本概念／メディア研究モデル

※教材5を参考にしてください。

### 4 学び方

#### ○ワークショップ

メディア・リテラシーの学びにおいては、学ぶものがメディアを意識化することが必要である。そのため、ここでは、具体的なメディア分析を行うワークショップを提案する。

#### ○メディア分析を経験して「自ら発見する」

ワークショップという学びの場を創るものをファシリテーターと呼ぶが、参加者の発言を促して多面的な「気づき」を引き出すためには、対等な関係で対話を通して新しい発見をしながら学ぶことが重要である。

教材6→

## 5 ワークショップの組み立て方

ここでは、すぐに入手できる新聞を使ったメディア・リテラシーワークショップの組み立てを提案する。テキストの準備も新聞を購入するだけなので、すぐに取り組むことができる。とはいえ、ファシリテーターの事前準備は大切である。

「全体の構成」、「1面分析」の2方法を提案する。

### その1 全国紙を使った新聞分析(全体の構成)

#### (1) 準備するもの

##### ①分析素材(テキスト)

- ・分析素材(全国紙朝刊5紙)  
各グループに2紙ずつ用意する。

##### ②ワークシート

- ・ワークシート14「新聞の紙面構成 記入シート」78頁  
各自に1枚ずつ用意する。
- ・ワークシート15「新聞の紙面構成 問いのシート」79頁  
各自に1枚ずつ用意する。
- ・グループ用のメモ用紙(A3判)

#### (2) 分析素材

ワークショップ当日か、なるべく近い発行日の全国紙朝刊5紙を用意する。

ファシリテーターは、ワークシート14「新聞の紙面構成 記入シート」を使いながら実際に分析してみるとよい。

また、ファシリテーターは前もって、各紙のインターネットサイトを利用して、各紙の購読部数、購読料、広告費などのデータを確認しておくとうよい。

#### (3) グループでの学習の進め方

##### 分析を始める前に

- ①ファシリテーターは、日頃何気なく手にしている新聞を使って、新聞の紙面全体(1面から最終面まで)がどのように構成されているのかを分析することを説明する。ここでは、グループで2紙を分析する手順を示すが、1紙だけでもよい。

##### グループでの作業

- ②グループに2紙(A新聞、B新聞)ずつ朝刊を配布して、まずA新聞の1面から最終面まで、紙面の右上または左上に記載されている、「総合」「経済」などの紙面の

ジャンルを、ワークシート14「新聞の紙面構成 記入シート」に記入していく。  
全面広告の場合は「広告」と記入する。

③もう1紙も同様に「新聞の紙面構成 記入シート」に記入する。

④1面から各紙面に占める広告の分量を、おおよそを測って集計する。

### グループでの分析作業

⑤それぞれの新聞の紙面全体は、どのように構成されているか、記入した「新聞の紙面構成 記入シート」を見ながら話し合う。ワークシート15「新聞の紙面構成 問いのシート」にもとづいて、2紙(A新聞、B新聞)を比較しながら、共通点と相違点を話し合う。

⑥2紙の広告の分量と、紙面全体に占める割合を見ながら、何が言えるかを話し合う。

### 発表

⑦ホワイトボードに、紙面全体(A新聞とB新聞の1面から最終面)の構成を書き出す。そして、一定時間話し合った後に、グループで話し合った内容を全体会で発表する。

⑧グループの発表が終わったら、他のグループによるホワイトボードに張り出されている5紙(A紙、B紙、C紙、D紙、E紙)の構成を見ながら、共通点と相違点を出し合い、なぜそのような共通点や相違点があるのかを話し合う。

## (4)ファシリテーターの留意点

※教材5を参考にしてください。

### ワークシート14 「新聞の紙面構成 記入シート」

○グループで担当した新聞の1面から最終面までの紙面構成を書き出しましょう。

	A新聞		B新聞	
	ジャンル	広告の量	ジャンル	広告の量
1面	(例)総合	(例)10%		
2面	政治	20%		
	社会			
	経済			
	生活			
	地方			
	広告	100%		
最終面	テレビ			

☆A3判に拡大してください。

☆配布するシートは、例を消し、書き込めるようにしてください。

## <ワークシート15> 新聞の紙面構成 問いのシート

紙面構成記入シートに書き出した紙面構成を見て、気づいたことを出し合いましょう。

① 1面から最終面まで総ページ数は？また、紙面の並び方はどうなっているだろうか。

② 広告の分量を測ってみよう。そして総ページ数に占める割合を出してみよう。

③ ①②を踏まえて紙面構成について、気づいたことを出し合おう。

④なぜ、そのような構成になっているのだろうか。新聞の特徴、ターゲットとする読者層などを含めて考えてみよう。

☆A3判に拡大してください。

## 5 ワークショップの組み立て方

### その2 全国紙を使った新聞分析(1面分析)

新聞にも紙面を構成する新聞固有の言語やきまり／約束事がある。ここでは、全国紙5紙の1面を分析対象とする。ニュース番組分析で使用するニューストピックが報じられる日の新聞を使ってもよい。

#### (1) 準備するもの

##### ①分析素材

- ・全国紙朝刊5紙  
グループごとに1紙ずつ分析する。  
参加者の数、グループの数によって部数を調整する。

##### ②ワークシート

- ・ワークシート16「新聞の1面構成 記入シート」82頁
- ・ワークシート17「新聞の1面構成 問いのシート」83頁  
参加者各自に1枚ずつ用意する。
- ・グループ用のメモ用紙(A3判)

#### (2) グループでの学習の進め方

##### 分析を始める前に

ファシリテーターは、ワークシート16「新聞の1面構成 記入シート」を使いながら、1面を構成する要素について説明する。

新聞では、掲載される位置、記事の面積(新聞によって1段の長さが違うので、記事の幅を測ることで「段センチ」という尺度を使用する)、見出し(内容、大きさ、書体など)、写真や図版(内容、大きさ、キャプション)、情報源、署名の有無などによって紙面が構成されていることを説明する。

##### グループでの分析

①グループで1紙を選んで、ワークシート16「新聞の1面構成 記入シート」を使いながら新聞の1面を分析していく。

これは、グループでの共同作業として進める。



## グループの話し合い

②「記入シート」への記入が終わったら、ワークシート17「新聞の1面構成 問いのシート」にもとづいて話し合いを行なう。

③記事の数、種類、掲載面・位置、面積について、どんな特徴があるだろうか。

④見出し(内容、大きさ、書体など)について、どんな特徴があるだろうか。

⑤写真・図版(内容、大きさ、キャプション)について、どんな特徴があるだろうか。情報源、執筆者は明示されているだろうか。

⑥ ③から⑤の分析をふまえてこの日の1面はどう構成されているだろうか。具体的に根拠を示して話し合ってみよう。また、なぜ、そのように構成されているのだろうか、話し合ってみよう。

## 発表

⑦ワークシート17「新聞の1面構成 問いのシート」にある問いについて、グループで話し合った後に発表をする。

⑧グループで分析した紙面の構成について発表を聞いた後で、さらに次の点について話し合い、全体で共有してみよう。

ア 他のグループの分析結果を聞いて、同じ日の新聞1面がどのように構成されているか、共通点と相違点をあげてみよう。相違点があるとすれば、なぜ、そのような相違点があるのだろうか。

イ テレビのニュース番組が報道されている日の新聞を使用した場合、ニュース番組の構成との共通点、相違点についても話し合ってみよう。

### (3)ファシリテーターの留意点

※教材5を参考にしてください。

### 6 今後に向けて～学びを深めるために

※教材5を参考にしてください。

## ＜ワークシート16＞ 新聞の1面構成 記入シート

各紙の1面の記事を次のシートに記入しながら分析し、問いについてグループで話し合い、全体で発表しよう。

テキスト： \_\_月\_\_日(朝刊) \_\_新聞(\_\_版)

番号 記事の数	掲載位置 ／記事の 種類	記事の面 積(段セン チ)	見出し(内 容、大き さ、書体な ど)	写真・図版 (内容、大 きさ、キャ プション)	情報源	記事の署 名(有・無)

☆A3判に拡大してください。

(C)NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所

## <ワークシート17> 新聞の1面構成 問いのシート

記入した1面構成を見ながら次の問いについて話し合おう。

①記事の数、記事の種類、掲載面・位置、面積について、どんな特徴があるだろうか。

②見出し(内容、大きさ、書体など)について、どんな特徴があるだろうか。

③写真・図版(内容、大きさ、キャプション)について、どんな特徴があるだろうか。  
情報源、執筆者は明示されているだろうか。

④ ①から③の分析をふまえてこの日の1面はどう構成されているだろうか。  
具体的に根拠を示して話し合ってみよう。また、なぜ、そのように構成されている  
のだろうか、話し合ってみよう。

⑤他のグループの分析結果を聞いて、同じ日の新聞1面がどのように構成されている  
か、共通点と相違点をあげてみよう。相違点があるとなれば、なぜ、そのような相違  
点があるのだろうか。話し合ってみよう。

☆A3判に拡大してください。

## 教材7 「法教育の視点から ルールづくり」

84～99頁

### 1 教材の趣旨

#### 「法教育」としての「ルールづくり」教材

この教材は、「法教育」の教材である。法教育とは、「アメリカの法教育法にいう Law-Related Education に由来する用語であって、法律専門家でない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身に付けるための教育」を意味する(法教育研究会『はじめての法教育』ぎょうせい, 2005年, 2頁を参考)。

法教育の教材の一つに「ルールづくり」があり、本教材はそれに該当する教材である。「ルールづくり」の特徴は、学習対象者となる人々が身近に感じられる紛争(トラブル)状況に対して、この紛争状況を解決するための解決策(ルール)づくりを体験的に行わせる点にある。解決策(ルール)を体験的に作成する過程においては、学習者がそれぞれ合理的な意見を持ち、学習者間の討論を経た合意形成に基づいて紛争を解決することが必要になるが、こうした体験的な作業は合理的意思決定や合意形成、そして建設的な批判の能力の育成にもつながると考えられる(法教育研究会『はじめての法教育』ぎょうせい, 2005年, 40頁を参考)。

### 2 事例

本教材では、自治会で実際に発生した紛争(トラブル)を事例として取り上げる。具体的には、下記の憲法問題をその内容としている。

#### 事例

「ある自治会の定期総会で、『赤い羽根共同募金』を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年2,000円)を決議した。すると、自治会員の一部の人たちが「思想及び良心の自由」(憲法19条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張した」

## 詳細(あくまでも参考)

滋賀県甲賀市甲南町の「希望ヶ丘自治会」は、従来、赤い羽根共同募金や日本赤十字社への寄付金などを、各世帯を訪問して任意で集めてきた。このように、この寄付金はグループ長・組長らが訪問して集めていたが、約940世帯ある上に高齢者も多く、各家を1軒ずつ回って徴収するのは負担が大きいこと、しかも協力を得られなかったり留守だったりするなどにより負担が重くなったため、グループ長になるのを避けようと休会する人もいた。そこで、集金にあたるグループ長・組長らの負担を解消しようと2006年3月の定期総会で、年会費6,000円の自治会費に募金や寄付金など2,000円分を上乗せ(増額)して徴収することを定期総会で賛成多数で決議した。

2006年3月総会議決

6,000円+2,000円=8,000円(上乗せ議決)(強行徴収)

その決議では、増額分の会費は、全額、地元の小中学校の教育後援会、赤い羽根共同募金会、緑化推進委員会、社会福祉協議会、日本赤十字社及び滋賀県共同募金会への募金や寄付金に充てる、としていた。

これに対して、原告らは「寄付するかどうかは個人の自由」と一律徴収に反対し、翌月に「本件決議は思想・良心の自由等の侵害を理由として決議の無効確認等を求めて訴訟を起こした。

### 3 学習のすすめ方

#### (1)準備する物

##### ①資料

- ・資料10 「実際の判決」 92頁
- ・資料11 「補足説明」 93頁

##### ②ワークシート

- ・ワークシート18 「自治会で起こったトラブル・あなたの考えは？」 95頁
- ・ワークシート19 「法的な観点から考えてみよう！」 96頁
- ・ワークシート20 「自治会で起こったトラブル・・・あなたたちの解決策を提案しよう！」 98頁

## (2) 5段階

- ①まず、その問題状況を理解すること
- ②この紛争の当事者の言い分を確認し、その言い分の多様性を理解すること
- ③この紛争を法的な観点を踏まえ、その状況を分析すること
- ④この紛争状況を解決するためのより望ましい解決策を考えること
- ⑤グループで議論し、合意形成することで、この紛争状況の解決策を作り上げること

上記の段階を踏むことで、合理的意思決定や合意形成能力などの育成につながると考えられる。法的な素養をもった市民の育成を可能にする法教育教材は、シティズンシップの育成にも直結する。21世紀市民社会形成の基盤になる教育内容・教材なのである。

## (3) 各段階の学習の進め方

グループディスカッションの進め方と学習の展開のあり方について、①から順に⑤まで説明しよう。進行は適宜、ファシリテーターが進めます。

ワークシート18を使います。

### ①問題状況の提示・理解

ここでの目標は、自治会で発生した紛争(トラブル)の内容を理解すること。

#### 学習活動

ア ある自治会で起こった紛争(トラブル)を提示する。

問題状況を、学習者の誰かが音読する。

ある自治会の定期総会で、「赤い羽根共同募金」を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年2,000円)を決議した。

すると、自治会員の一部の人たちが、「思想及び良心の自由」(憲法19条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張した。

イ その問題状況を理解する。

「憲法19条」「自治会」「赤い羽根共同募金」などについて、資料11を使って簡単に説明する。

ウ このような主張があった場合、あなた自身はどう考えるのか。

→ 回答例

「自分の権利を主張しすぎている」

「憲法上の権利は保障されるべきだ」他

## ②問題状況の理解に関する多様な主張の理解

ここでの目標は、各住民の立場の主張・根拠を理解すること。

### 学習活動

自治会費徴収にともなう住民の主張・根拠を提示する。

紛争「当事者」4名の「言い分」を、参加者が役割分担して音読する。

#### 自治会長の言い分

「定期総会で決定したことだから徴収しても良いではないか。ちゃんと定期総会で話し合っただ多数決で決めているという手続きを踏んでいるじゃないか」  
根拠は、手続き的正義。

#### 住民Aの言い分

「グループ長は毎回集金に苦勞している。このままでは誰もグループ長をやる人がいなくなる。自治会組織を維持するためにも必要なのではないか」  
根拠は、「自分たちのことは自分たちで決める」ということは大切であるという、自治の考え方。

#### 住民Bの言い分

「私は募金ではなく、自らの身体で貢献したいと思っている。例えば、地震があった地域には、必ずボランティアとして参加している。自治会費として募金を徴収されるのは私の信条に反する」  
根拠は、「思想・信条の自由」は大切にされるべきである(憲法19条)。

#### 住民Cの言い分

「生活に苦しく、年間2,000円も増額されては困る」

### ②の留意点

紛争の当事者たちの「言い分」を確認する。

- ・学習テーマ「自治会費徴収問題の解決案を考えよう」を再確認する。
- ・資料を読み、各住民の立場を知ること、何らかの解決策を見いだす必要性を感じさせる。
- ・それぞれの「当事者」の「言い分」には根拠があり、根拠を明確にした「言い分」であることを確認する。それぞれが「妥当な言い分」であることを理解する。

### ③法的な観点の考慮

ここでの目標は、段階を追って2つの観点、「個人の権利侵害の重要性」と「団体の自主性・自律性」から自分の意見を整理できること。

#### 学習活動

ア 集団の中で物事を決める場合、「みんなで決めて良いこと」と「みんなで決めてはいけないこと」がある。例えば「決めてはいけないこと」はどんなことかを聞く。

#### → 回答例

「人をいじめること」

「個人の人権を侵害するようなこと」

イ 「特定の政党に寄付するために自治会費を増額する」ことは「みんなで決めてよい」のか。それはなぜかを聞く。

#### → 回答例

「特定の政党を応援することはひとそれぞれ違うし、自治会に所属する人たちはみんな考え方も違うのだから、増額した自治会費を特定の政党に寄付することは問題であるので『みんなで決めてはいけない』、「みんなが一緒に支持するのだったら問題ないので『みんなで決めて良い』」

ウ 「自治会の運営費が不足したので増額する」ことは「みんなで決めて良い」のか。それはなぜかを聞く。

#### → 回答例

「運営費がないと自治会がなりたたなくなってしまうので、自治ができない。だから『みんなで決めて良い』」他

エ 「赤い羽根共同募金」のために自治会費を増額することは「みんなで決めて良いのか」、「みんなで決めて良くない」のか。どちらの立場に立つかを聞く。そして、それはなぜかを聞く。

#### アの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」について考える場面である。

「個人の権利侵害」に関わる内容がいくつか事例として出されれば良い。

「(一人一人の問題なので)みんなで決めてはいけないのか」「(みんなの問題なので)みんなで決めて良いのか」といった問い立てをすることで、段階を追って2つの観点到って行く。



### イの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」について考える場面である。

- ・同じ自治会でも様々な政党を支持する会員がいるので、「一人一人の問題」になると考えるならば「みんなで決めてはいけない」となるし、同じ自治会で同じ政党を全ての会員が支持しているのなら「みんなの問題」になると考える場合が出てきて「みんなで決めて良い」となるかもしれない。
- ・いずれにしてもどのような自治会構成なのかが考えるポイントになる。

### ウの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「団体の自主性・自律性」について考える場面である。

- ・同じ自治会を構成している会員であるから（「みんなの問題」として捉えている）、運営費が不足したなら会費を増額すべきと考えるなら「みんなで決めて良い」となる。

### エの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」「団体の自主性・自律性」の両面について考える場面である。

- ・「募金」をすることは「一人一人の問題」なのか「みんなの問題」なのか、「募金」をすることをどう捉えるのかによって、その「主張」は異なってくる。

「募金」は「一人一人の問題」だと捉えるならば「みんなで決めては良くない」となるし、「みんなの問題」だと捉えるならば「みんなで決めて良い」となるだろう。学習者それぞれが考える理由は実に多様になる。それぞれが考えた理由が「妥当」なものだと判断できればそれで問題はない。



ワークシート20を使います。

### ⑤グループでの討議・最終的意思決定

ここでの目標は、グループで議論し、議論を踏まえた上で一人一人が最終的な問題解決策を考案できること。

#### 学習活動

学習者各々が考えた解決策(ルール)について、グループで発表し合い、学習者一人一人が解決策(ルール)を提案し、どの解決策がより望ましいのか、検討を重ねていく。

最後にグループで議論した内容を他のグループにも発表し、議論の経過とその結論を伝える。

#### ⑤の留意点

グループで議論し、合意形成することで、この紛争状況の解決策(ルール)を考案する。

- ・「実現可能性(金銭的な負担の問題など)」に留意しつつ検討を重ねる。
- ・「ルール」を作る場合は、以下などの観点を踏まえ、検討を行う。  
「どのような目的でその目的を実現する上で適切な手段なのか：手段の相当性」  
  
「そのルールは色々な解釈ができないのか：明確性」  
  
「立場が変わっても受け入れられるのか：公正さ」

## <資料10> 実際の判決

### 第1審判決(大津地方裁判所 平成18年11月27日 判例集未掲載)

本件募金対象団体が政治的思想や宗教に関わるものではなく、寄付の名義は原告らではなく「希望ヶ丘自治会」であることから構成員の思想信条に与える影響は直接かつ具体的なものではなく、また負担金額も過大ではない、として本件決議が公序良俗に反しないとしていた。

### 第2審判決(大阪高等裁判所 平成19年8月24日判決)

募金及び寄付金は、その性格上、「すべて任意に行われるべきものであり」グループ長や組長集金の負担の解消を理由に、これを会費化して一律に協力を求めようとする事自体、「希望ヶ丘自治会」の性格からして、「様々な価値観を有する会員が存在することが予想されるのに、これを無視するものである上、募金及び寄付金の趣旨にも反する」としました。そして、募金及び寄付金に応じるかどうかは、「各人の属性、社会的・経済的状況等を踏まえた思想、信条に大きく左右されるものであり」、会員の任意の態度、決定を十分に尊重すべきだとし、「その支払を事実上強制するような場合には、思想、信条の自由の侵害の問題が生じ得る」とした。なお、本自治会の場合、会費を納付しなければ脱会を余儀なくされる恐れがあったが、自治会未加入者はごみステーションを利用できないなどの不利益を受け、脱退の自由を事実上制限されていた。したがって、本件募金の徴収は、「会員の生活上不可欠な存在」である「希望ヶ丘自治会」により、事実上強制されるものであり、「社会的に許容される限度を超える」と判示して、1審判決を取り消していた(『判例セレクト2007』有斐閣)。

### 最高裁判決(最高裁判所第1小法廷 平成20年4月3日判決)

自治会側の上告を棄却する決定をしました。これで「徴収は思想・信条の自由(憲法19条)を侵害する」として決議を無効と認め、反対住民側の逆転勝訴の二審大阪高裁判決が確定しました。

## <資料 1 1> 補足説明

### 憲法 19 条

「思想と良心の自由は絶対に侵してはならない」と規定しており、思想と良心とは、内心におけるものの見方ないし考え方(世界観・人生観・主義・信条など)を指している。判例では、思想の自由は人が内心に抱く考え方の自由が外部の強制・圧迫・差別待遇により妨げられないこと、人の精神活動の自由が外部の力から保証されている状態を指す(星野安三郎他監修『口語六法全書憲法』自由国民社、1998年)。

### 自治会(町内会)

自治会(町内会)には様々な形態があるが、共通して5つの条件を持つ組織とされる。

- ①一定の地域区画を持ち、その区画が相互に重なり合わない、
- ②世帯を単位として構成される、
- ③原則として全世帯加入の考え方にたつ、
- ④地域の諸課題に関与する、
- ⑤それらの結果として行政や外部の第三者に対して、地域を代表する組織になるのである。いずれにしても④に対処するために、一定の地域区画の中の世帯が協働して活動を行う組織と位置づけることが出来るだろう(中田実『地域分権時代の町内会・自治会』自治体研究社、2007年)。

### 赤い羽根共同募金

1947年に市民による主体的な取り組みから始まった運動。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃をうけた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきた。その後、社会福祉事業の推進のために活用されて、60年以上たった今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして、募金を実施されている。「赤い羽根共同募金」のホームページには、寄付金の使い道も報告されているので、学習する際にはぜひ参照してください。<http://www.akaihane.or.jp/>

### 個人の権利侵害の重要性

一般的には、個人の権利侵害が「許容範囲」なのか否かについて考える視点になり、本事例の場合、憲法19条に違反していると考えなのか考えないのか、について考察する視点。本学習では、「(一人一人の問題なので)みんなで決めてはいけない」「(みんなの問題なので)みんなで決めて良い」という問い立てに考察することになる。

### 団体の自主性・自律性

一般的には、団体がどこまでの内容を決めることが社会正義に適っているのか否かについて考える視点になり、本事例の場合、赤い羽根共同募金の金額分を自治会費に上乗せすることを自治会として決めて良いのか否かについて考察することになる。本学習では、「(みんなの問題なので)みんなで決めて良い」のか否かという問い立てで考察することになる。なお、本事例では、「個人の権利侵害の重要性」と「団体の自主性・自律性」を関連して考察することとなる。

<ワークシート18>自治会で起こったトラブル・・・あなたの考えは？

氏名 \_\_\_\_\_

ある自治会の定期総会にて・・・

「赤い羽根共同募金」を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年2,000円)の決議をしました。

そうすると、自治会員の一部の人たちが「思想及び良心の自由」(憲法19条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張しました。

○この主張があった場合、あなた自身はどう考えますか？

◇自治会費徴収にともなう住民の主張とその根拠はどうなっているだろうか？

自治会長	定期総会で決定したことだから徴収しても良いではないか。ちゃんと定期総会で話し合っ て多数決で決めるという手続きを踏んでいるじゃないか。	住民A	グループ長は毎回集金に苦勞している。このままでは誰もグループ長をやる人がいなくなるわ。自治会組織を維持するためにも必要じゃないのかしら。
根拠	手続き的正義	根拠	「自分たちのことは自分たちで決める」ということは大切である；自治の考え方
住民B	私は募金ではなく、自らの身体で貢献したいと思っている。例えば、地震があった地域には必ずボランティアとして参加している。自治会費として募金を徴収されるのは私の信条に反する。	住民C	生活に苦しく年間2,000円も増額されては困るわ。
根拠	「思想・信条の自由」は大切にされるべきである；憲法19条	根拠	_____

●今回の学習テーマ

## <ワークシート19> 法的な観点から問題を考えてみよう！

氏名 \_\_\_\_\_

○解決を考える際の法的な観点として・・・

1) 個人の権利侵害の重要性・・・各個人の権利が侵害されているか否か

2) 団体の自主性、自律性・・・みんなで決めてよいことか否か

(1) 集団の中で物事を決める場合、「みんなで決めて良いこと」と「みんなで決めてはいけないこと」がある。例えば「決めてはいけないこと」はどんなことですか？


① 例えば「特定の政党に寄付するために自治会費を増額する」ことは「みんなで決めてよい」のですか？それはなぜですか？


② 例えば「自治会の運営費が不足したので増額する」ことは「みんなで決めて良い」のですか？それはなぜですか？




(2)「赤い羽根共同募金」のために自治会費を増額することは「みんなで決めて良い」  
のですか？「みんなで決めてはいけない」のですか？


メモ欄

--

<ワークシート20>自治会で起こったトラブル  
・・・あなたたちの解決策を提案しよう！

氏名 \_\_\_\_\_

○あなたの解決案を考えよう！

解決策がなぜ適切なのか理由、根拠を示しながら提案しよう！


●あなたたちの解決案を考えよう！

グループで各自の解決策を出し合い、一つの解決案を提案しよう！


★他のグループの発表を聞いて、感じたことをまとめてみよう！


メモ欄

--

## 教材執筆者の紹介

渡部一清さん(教材 1、2、3、4)

青森県内で公立中学校教諭を経て、社会教育主事として24年間勤務。現在、青森中央短期大学非常勤講師、全国生涯学習まちづくり協会まちづくりコーディネーター、青森県明るい選挙推進協議会常任委員、青森市明るい選挙推進協議会会長。

西村寿子さん(教材 5、6)

NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所所長。同研究所は1977年に創設され、メディア分析調査やメディア政策への提言、セミナー、市民講座の企画などに取り組んでいます。

橋本康弘さん(教材 7)

高校教諭を経て、現在、福井大学教育地域科学部准教授(社会科教育学)、福井県明るい選挙推進協議会委員。平成22年度には文部科学省教科調査官を併任。法教育ネットワークや法務省法教育研究会に参加。著書に「教室が白熱する身近な問題の法学習15選」など。

